

官報

號外 昭和二十年十二月十一日

○第八十九回衆議院議事速記録第十號

昭和二十年十二月十日(月曜日)
午後二時五十分開議

議事日程 第九號

昭和二十年十二月十日

午後一時開議

第一 勞働組合法案(政府提出)

第一讀會

第二 鹽專賣法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三 昭和二十年法律第十八號中改正法律案(昭和二十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

第四 蠶絲業法改正法律案(政府提出)

第一讀會

第五 裁判所構成法戰時特別廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第六 戰時民事特別法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)第一讀會

第一讀會

第七 戰時刑事特別法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)第一讀會

第一讀會

第八 判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第九 鐵道敷設法戰時特別廢止法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第十 昭和二十年勅令第五百四十二號(「ボツダム」宣言ノ受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)(貴族院送付)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)
一、政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

農業團體法中改正法律案
水産業團體法中改正法律案
鹽專賣法中改正法律案

(以上十二月七日提出)

(第二號)昭和二十年度歳入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和二十年度特別會計歳入歳出豫算追加案

蠶絲業法改正法律案
昭和二十年法律第十八號中改正法律案(昭和二十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル件)

勞働組合法案
(以上十二月八日提出)

一、去八日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

裁判所構成法戰時特別廢止法律案
戰時民事特別法廢止法律案
戰時刑事特別法廢止法律案
判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案

鐵道敷設法戰時特別廢止法律案
昭和二十年勅令第五百四十二號(「ボツダム」宣言ノ受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)

一、議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
社會教育ノ強化擴充ニ關スル建議案

提出者
石坂 繁君 伊吹元五郎君
森 肇君 富澤 裕君
沖 藏君 曾木 重貴君
高城 憲夫君 桃原 茂太君
伊豆 富人君

(以上十二月七日提出)
一、議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ
教職員待遇改善ニ關スル質問主意書
提出者 木村寅太郎君
(以上十二月七日提出)

一、去七日幣原内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
司法省調査官 荻野益三郎
第八十九回帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

鐵道監 鄉野 基秀
運輸省航空局長 飯野 毅夫
第八十九回帝國議會運輸省所管事務政府委員被仰付

一、去七日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
一七 秋田縣第二區選出議員
六三 青山 憲三君

一、去七日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
農地調整法中改正法律案(政府提出)委員
委員長 村上 國吉君
理事 越智太兵衛君 小平 權一君
山田 順策君 赤城 宗德君

一、去七日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
農業團體法中改正法律案(政府提出)外一委員
安倍 寛君 愛野時一郎君
五十嵐吉藏君 石坂 義平君
今尾 登君 宇田 耕一君
岡田啓治郎君 川崎巳之太郎君
楠美 省吾君 鈴木 重次君
田嶋榮次郎君 中瀬 拙夫君

仲西 三良君 濱地 文平君
別所喜一郎君 松延彌三郎君
森川 仙太君 山田 六郎君
安孫子孝次君 青山 憲三君
大石 大君 北 勝太郎君
眞崎 勝次君 奥野小四郎君
加藤 宗平君 二田 是儀君
川俣 清音君

入營者職業保障法及國民勞務手續法廢止法律案(政府提出、貴族院送付)委員
木原 七郎君 毛山森太郎君
小谷 節夫君 小林 絹治君
小柳 牧衛君 坂本宗太郎君
酒井 利雄君 高城 憲夫君
遠山 暉男君 中瀬 拙夫君
仲井間宗二君 南條 德男君
船渡 佐輔君 別所喜一郎君
星 一君 松田 正一君
柳川宗左衛門君 山田 竹治君
高岡 大輔君 永野 護君
藤井伊右衛門君 松本 忠雄君
山野 平二君 岸井 壽郎君
瀧澤 七郎君 松岡 俊三君
松本治一郎君

刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外五十五名提出)委員

伊藤 清君 伊藤 五郎君
今成留之助君 江口 繁君
田村 秀吉君 谷原 公君
長井 源君 林 信雄君
一松 定吉君 村松 久義君
山本 芳治君 小野 秀一君

田中伊三次君 田中 藤作君
三田村武夫君 信正 義雄君
原 玉重君 水谷長三郎君
一、去八日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第六部選出豫算委員 木村 武雄君
第七部選出懲罰委員 濱田 尚友君
一、去八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
農業團體法中改正法律案(政府提出)
外一件委員
委員長 川崎巳之太郎君
理事 仲西 三良君 松延彌三郎君
北 勝太郎君
刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外五十五名提出) 委員
委員長 一松 定吉君
理事 伊藤 清君 今成留之助君
田中伊三次君
一、去八日ニ於ケル特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ
農地調整法中改正法律案(政府提出) 委員
理事 池澤基國郎君(理事小笠原八十美君去八日理事辭任ニ付兼ノ補闕)
一、去八日特別委員理事追加當選ノ結果左ノ如シ
農地調整法中改正法律案(政府提出) 委員
理事追加 小笠原八十美君

理事追加 杉山元治郎君
一、去八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
農地調整法中改正法律案(政府提出) 委員
辭任阿子島俊治君 補闕長内 健榮君
農業團體法中改正法律案(政府提出) 外一件委員
辭任眞崎 勝次君 補闕眞藤慎太郎君
刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外五十五名提出) 委員
辭任水谷長三郎君 補闕菊地義之輔君
一、昨九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第四部選出豫算委員 田中 貢君
〇議長(島田俊雄君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、勞働組合法案ノ第一讀會ヲ開キマス、 吉田厚生大臣
第一 勞働組合法案(政府提出) 第一讀會
勞働組合法案 第一讀會
第一章 總則
第一條 本法ハ團體組織ノ保障及團體交渉權ノ保護助成ニ依リ勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ經濟ノ興隆ニ寄與スルコトヲ以テ目的トス
刑法第三十五條ノ規定ハ勞働組合ノ團體交渉權ノ他ノ行為ニシテ前項ニ掲グル目的ヲ達成スル爲メタル正當ナルモノニ付適用アルモノトス

第二條 本法ニ於テ勞働組合トハ勞働者ガ主體トナリテ自主的ニ勞働條件ノ維持改善其ノ他經濟的地位ノ向上ヲ圖ルコトヲ主タル目的トシテ組織スル團體又ハ其ノ聯合團體ヲ謂フ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
一 使用者又ハ其ノ利益ヲ代表スト認ムベキ者ノ參加ヲ許スモノ
二 主タル經費ヲ使用者ノ補助ニ仰グモノ
三 共濟事業其ノ他福利事業ノミヲ目的トスルモノ
四 主トシテ政治運動又ハ社會運動ヲ目的トスルモノ
第三條 本法ニ於テ勞働者トハ職業ノ種類ヲ問ハズ賃金、給料其ノ他之ニ準ズル收入ニ依リ生活スル者ヲ謂フ
第四條 警察官吏、消防職員及監獄ニ於テ勤務スル者ハ勞働組合ヲ結成シ又ハ勞働組合ニ加入スルコトヲ得ズ
前項ニ規定スルモノノ外官吏、待遇官吏及公吏其ノ他國又ハ公共團體ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得但シ勞働組合ノ結成及之ニ加入スルコトノ禁止又ハ制限ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二章 勞働組合
第五條 勞働組合ノ代表者ハ組合設立ノ日ヨリ一週間以内ニ規約並ニ役員ノ氏名及住所ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ
前項ノ規定ニ依リ届出タル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ一週間以内ニ之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ
第六條 前條第一項ノ届出アリタル場合ニ於テ當該組合第二條ニ該當セザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ勞働委員會ノ決議ニ依リ行政官廳之ヲ決定ス
前項ノ規定ハ勞働組合トシテ設立シタルモノ第二條ニ該當セザルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス
第七條 規約ニハ少クモ左ノ事項ヲ記載スベシ
一 名稱
二 主タル事務所ノ所在地
三 法人タル組合ニ在リテハ法人タルコト
四 目的及事業
五 組合員又ハ構成團體ニ關スル規定
六 會議ニ關スル規定
七 代表者其ノ他役員ニ關スル規定
八 組合費其ノ他會計ニ關スル規定
九 規約ノ變更ニ關スル規定
第八條 規約法令ニ違反スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ勞働委員會ノ決議ニ依リ行政官廳ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第九條 勞働組合ハ事務所ニ組合員又ハ構成團體ノ名簿ヲ備付クベシ
第十條 勞働組合ノ代表者又ハ勞働組合ノ委員ヲ受ケタル者ハ組合又ハ組合員ノ爲使用者又ハ其ノ團體ト勞働協約ノ締結其ノ他ノ事項ニ關シ交渉スル權限ヲ有ス
第十一條 使用者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇シ其ノ他之ニ對シ不利益ナル取扱ヲ爲スコトヲ得ズ
使用者ハ勞働者ガ組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ズ
第十二條 使用者ハ同盟罷業其ノ他ノ爭執行為ニシテ正當ナルモノニ因リ損害ヲ受ケタルノ故ヲ以テ勞働組合又ハ其ノ組合員ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ
第十三條 勞働組合ハ共濟事業其ノ他福利事業ノ爲特設シタル基金ヲ他ノ目的ノ爲ニ流用セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ベシ
第十四條 勞働組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス
一 規約ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
二 破産
三 組合員又ハ構成團體ノ四分ノ三以上ノ多數ニ依リ總會ノ決議
四 第六條ノ規定ニ依リ決定
五 第十五條ノ規定ニ依リ解散ノ處分

第九條 勞働組合ハ事務所ニ組合員又ハ構成團體ノ名簿ヲ備付クベシ
第十條 勞働組合ノ代表者又ハ勞働組合ノ委員ヲ受ケタル者ハ組合又ハ組合員ノ爲使用者又ハ其ノ團體ト勞働協約ノ締結其ノ他ノ事項ニ關シ交渉スル權限ヲ有ス
第十一條 使用者ハ勞働者ガ勞働組合ノ組合員タルノ故ヲ以テ之ヲ解雇シ其ノ他之ニ對シ不利益ナル取扱ヲ爲スコトヲ得ズ
使用者ハ勞働者ガ組合ニ加入セザルコト又ハ組合ヨリ脱退スルコトヲ雇傭條件ト爲スコトヲ得ズ
第十二條 使用者ハ同盟罷業其ノ他ノ爭執行為ニシテ正當ナルモノニ因リ損害ヲ受ケタルノ故ヲ以テ勞働組合又ハ其ノ組合員ニ對シ賠償ヲ請求スルコトヲ得ズ
第十三條 勞働組合ハ共濟事業其ノ他福利事業ノ爲特設シタル基金ヲ他ノ目的ノ爲ニ流用セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ベシ
第十四條 勞働組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス
一 規約ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生
二 破産
三 組合員又ハ構成團體ノ四分ノ三以上ノ多數ニ依リ總會ノ決議
四 第六條ノ規定ニ依リ決定
五 第十五條ノ規定ニ依リ解散ノ處分

第十五條 勞働組合廢法令ニ違反シ

安寧秩序ヲ紊リタルトキハ勞働委員會ノ申立ニ依リ裁判所ハ勞働組合ノ解散ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル手續ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 勞働組合ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ因リテ法人タルモノトス

本法ニ規定スルモノノ外勞働組合ノ登記ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 勞働組合ニ關シ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三

者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 民法第四十三條、第四十四條、第五十條、第五十二條乃至第五十九條及第七十二條乃至第八

十三條並ニ非訟事件手續法第三十五條、第三十六條、第三十七條ノ二、第三百三十六條第一項、第三百七條及第三百三十八條ノ規定ハ法人タル勞働組合ニ之ヲ準用ス

第十九條 法人タル勞働組合ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅及法人稅ヲ課セズ

第三章 勞働協約

第二十條 勞働組合ト使用者又ハ其ノ團體トノ間ノ勞働條件其ノ他ニ關スル勞働協約ハ書面ニ依リ之ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

勞働協約ノ當事者ハ勞働協約ヲ其ノ締結ノ日ヨリ一週間以内ニ行政

官廳ニ届出ツベシ

第二十一條 勞働協約締結セラレタルトキハ當事者互ニ誠意ヲ以テ之ヲ遵守シ勞働能率ノ増進ト産業平和ノ維持トニ協力スベキモノトス

第二十二條 勞働協約ニ定ムル勞働條件其ノ他ノ勞働者ノ待遇ニ關スル標準ニ當該勞働協約ニ依リ規定決定ノ爲設置セラレタル機關ノ存

スルトキハ其ノ定メタル標準ヲ含ム以下同ジニ違反スル勞働協約ノ部分ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テ無効ト爲リタル部分ハ標準ノ定ムル所ニ依リ勞働協約ニ定ナキ部分ニ付亦同ジ

第二十三條 一ノ工場事業場ニ常時使用セラルル同種ノ勞働者ノ數ノ四分ノ三以上ノ數ノ勞働者ガ一ノ勞働協約ノ適用ヲ受クルニ至リタルトキハ當該工場事業場ニ使用セラルル他ノ同種ノ勞働者ニ關シテモ當該勞働協約ノ適用アルモノトス

第二十四條 一ノ地域ニ於テ從業スル同種ノ勞働者ノ大部分ガ一ノ勞働協約ノ適用ヲ受クルニ至リタルトキハ協約當事者ノ双方又ハ一方ノ申立ニ基キ勞働委員會ノ決議ニ依リ行政官廳ハ當該地域ニ於テ從業スル他ノ同種ノ勞働者及其ノ使用者モ當該勞働協約ノ第二項ノ規定ニ依リ修正アリタルモノヲ含ムノ適用ヲ受クベキコトノ決定ヲ爲スコトヲ得協約當事者ノ申立ナキ場合ト雖モ行政官廳必要アリト認ムルトキ亦同ジ

勞働委員會前項ノ決議ヲ爲スニ付當該勞働協約ニ不當ナル定アリト認ムルトキハ之ヲ修正スルコトヲ得

第二十五條 勞働協約ニ當該勞働協約ニ關シ紛争アル場合調停又ハ仲裁ニ付スルコトノ定アルトキハ調停又ハ仲裁成ラザル場合ノ外同盟罷業、作業所閉鎖其ノ他ノ爭議行為ヲ爲スコトヲ得ズ

第四章 勞働委員會

第二十六條 使用者ヲ代表スル者、勞働者ヲ代表スル者及第三者各同數ヨリ成ル勞働委員會ヲ設ク

使用者ヲ代表スル者ハ使用者團體ノ推薦ニ基キ、勞働者ヲ代表スル者ハ勞働組合ノ推薦ニ基キ、第三者ハ使用者ヲ代表スル者及勞働者ヲ代表スル者ノ同意ヲ得テ行政官廳之ヲ委嘱スベキモノトス

勞働委員會ハ中央勞働委員會及地方勞働委員會トス特別ノ必要アルトキハ一定ノ地區又ハ事項ニ付特別勞働委員會ヲ設クルコトヲ得

勞働委員會ノ委員及命令ヲ以テ定ムル職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ

從事スル職員ト見做ス勞働委員會ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 勞働委員會ハ第六條、第八條、第十五條、第二十四條及第三十三條ニ規定スルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一 勞働爭議ニ關スル統計ノ作成其ノ他勞働事情ノ調査

二 團體交渉ノ斡旋其ノ他勞働爭議ノ豫防

三 勞働爭議ノ調停及仲裁

勞働委員會ハ勞働條件ノ改善ニ關シ關係行政廳ニ建議スルコトヲ得

第二十八條 勞働委員會ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ關係者ノ請求アルトキハ其ノ會議ヲ公開スルコトヲ得

第二十九條 勞働委員會其ノ事務ヲ行フ爲必要アルトキハ使用者又ハ其ノ團體、勞働組合其ノ他ノ關係者ニ對シ出頭ヲ求メ、報告ヲ徴シ若ハ必要ナル帳簿書類ノ提出ヲ求メ又ハ委員若ハ第二十六條第四項ノ命令ヲ以テ定ムル職員以下職員ト稱スラシテ關係工場事業場ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十條 勞働委員會ノ委員若ハ委員タリシ者又ハ職員若ハ職員タリシ者ハ其ノ職務ニ關シ知得シタル秘密ヲ漏泄スルコトヲ得ズ

第三十一條 第三章ノ規定ハ勞働委員會ノ關與シタル勞働條件其ノ他ノ勞働者ノ待遇ニ關スル標準ニ關スル協定ニシテ勞働組合其ノ當事者タラザルモノニ付之ヲ準用ス

第三十二條 一定ノ勞働者ノ勞働條件其ノ他ノ待遇特ニ適切ナラザルトキハ勞働委員會ハ其ノ實情ヲ調査シ改善ノ具體案ヲ作成シテ行政官廳ニ建議スルコトヲ得

前項ノ建議アリタル場合ニ於テ行政官廳必要アリト認ムルトキハ關係使用者ニ對シ勞働條件其ノ他ノ待遇ニ關スル標準ヲ指示スルコトヲ得

使用者前項ノ指示ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ勞働者ニ周知セシムルコトヲ要ス

第二項ノ規定ニ依リ指示アリタル標準ハ關係使用者及關係勞働者ニ付勞働協約ト同一ノ效力ヲ有ス

第五章 罰則

第三十三條 第十一條ノ規定ニ違反アリタル場合ニ於テハ其ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ勞働委員會ノ請求ヲ待テ之ヲ論ズ

第三十四條 第三十條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 第二十九條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ若ハ帳簿書類ノ提出ヲ爲サ

官報號外 昭和二十年十二月十一日 衆議院議事速記録第十號 勞働組合法案 第一讀會

又ハ同條ノ規定ニ違反シ出頭ヲ
拒ミ、妨者ハ罰金ニ處ス
五 百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十六條 法人又ハ人ノ代理人、
店主、家族、同居者、雇人其ノ他
ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務
ニ關シ前條前段ノ違反行爲ヲ爲シ
タルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己
ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ
處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
前條前段ノ規定ハ其ノ者ガ法人ナ
ルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人
ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年
者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法
定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ
關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル
未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第三十七條 左ノ場合ニ於テハ勞働
組合ノ代表者又ハ清算人ヲ五十圓
以下ノ過料ニ處ス

一 第五條又ハ第十九條第二項(第
三十一條ニ於テ適用スル場合ヲ含
ム)ノ規定ニ違反シ出頭ヲ爲サズ
又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタルトキ
二 第九條ノ規定ニ違反シ名簿ノ備
付ヲ爲サザルトキ
三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命
令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リタ
ルトキ
四 第十七條ニ於テ適用スル民法第
七十九條又ハ第八十一條ノ規定ニ
違反シ公告ヲ爲サズ又ハ不正ノ公

告ヲ爲シタルトキ
五 第十七條ニ於テ適用スル民法第
八十一條ノ規定ニ違反シ破産宣告
ノ請求ヲ爲サザルトキ
六 第十七條ニ於テ適用スル民法第
八十二條又ハ非訟事件手續法第三
十六條ノ規定ニ依ル裁判所ノ検査
ヲ妨ゲタルトキ
第十九條第二項(第三十一條ニ於テ
適用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反
シ届出ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ届出ヲ爲
シタルトキハ勞働組合以外ノ勞働協
約ノ當事者(當事者團體ナルトキハ
其ノ代表者トス)ヲ五十圓以下ノ過
料ニ處ス
使用者第三十二條第三項ノ規定ニ違
反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ
處ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム
本法施行ノ際現ニ存スル勞働組合ハ
本法施行ノ日ヨリ一週間以内ニ第五
條第一項ノ規定ニ準ジ届出ヲ爲スベシ
登錄稅法中左ノ通改正ス
第十九條第七號中「産業組合聯合會」
ヲ「産業組合聯合會、勞働組合」ニ、
「産業組合法」ヲ「産業組合法、勞働
組合法」ニ改ム
〔國務大臣片岡健吉登壇〕
○國務大臣(片岡健吉) 只今議題トナ
リマシタ勞働組合法案ノ提案ノ理由ヲ
説明致シマス
我が國ノ近代産業ハ日清日露兩戰役

ニ依ツテ特ニ發育ノ契機ヲ與ヘラレ、第
一次世界大戰ヲ以テ飛躍的發展ノ時期
ニ入りマシタ、資本ト勞働トノ調整、
社會政策トシテノ勞働問題ガ採リ上ゲ
ラレタノハ「ヴェルサイユ」條約以降ノ
時期デアリマス、斯クシテ大正八、九
年頃ヨリ勞働組合ノ結成ガ促進セラ
レ、之ニ伴フテ勞働組合法ノ制定ガ朝
野ノ問題トナツタコトハ御承知ノ通り
デアリマス、曩ニ昭和六年ノ第五十九
帝國議會ニ於テハ、政府提案ノ勞働組
合法案ガ衆議院ヲ通過致シマシタガ、
貴族院ニ於テ審議未了トナリ、引續キ
滿洲事變ノ勃發ニ依ツテ勞働組合ノ發
達ハ阻止セラレ、勞働組合法ニ對スル
朝野ノ關心モ冷却シテ遂ニ今日ニ至ツ
タノデアリマス、然ルニ最近ノ終戰ト
共ニ我が國ニ於ケル民主主義の傾向ノ
復活強化ハ勞働組合ノ再組織トナツテ
現ハレ、全國各地ニ互リ新シキ組合ノ
結成セラレルモノ相次イデ増加スル傾
向ニアリマス、惟フニ新日本ノ建設ニ
當リ最モ緊急ヲ要スル平和産業ノ再建
ニ當リマシテ、乏シキ資本資源ヲ活用
スル爲ニハ勞働ニ期待スベキ所極メテ
大イナルモノガアルコトハ申スマデモ
アリマセヌ、斯カル時勞働者ヲシテ喜
ンデ勞務ニ當ラシメ、進ンデ其ノ能率
ヲ發揮セシメテ、時代ノ要請ニ即應ス
ル爲ニハ先ヅ勞働者大衆ニ對シテ其ノ
組合結成ニ付キ十分ナル自由ヲ保障
シ、其ノ行動ニ統一ト秩序ヲ保タシ
メルコトガ絕對ニ必要デアリマス、此

ノ目的ノ爲ニハ一面ニ於テ勞働條件ノ
適正化ヲ圖リ、他面勞働意欲ノ昂揚ヲ
圖ルコトガ最モ重要ナ基本ノ要件デア
ルト信ジマス、即チ政府ハ現在勞働組
合ノ結成ガ急速ニ進展シツ、アル事情
ニ鑑ミ、進ンデ是ガ健全ナル育成ヲ助
成スルコトヲ喫緊ノ要務ナリト認メタ
ノデアリマス、斯カル際際聯合國最高司
令官ヨリ政府ニ示サレタ五項目中ニ、
勞働者ノ搾取ト酷使カラノ防衛、及ビ
其ノ生活水準ノ向上ノ爲メ、有效ナル
發言ヲ許容スル如キ權威ヲ與フル爲ニ
勞働組合ヲ促進助長スベキコトガ要請
サレタノデアリマス、仍テ政府ハ朝野
ノ專門の知識經驗ヲ有スル人々ヲ以
テ勞務法制審議會ヲ組織シ、其ノ具
體的成案ノ作成ヲ求メマシタ所、最
近一ノ答申ヲ得タノデ、之ヲ骨子ト
シテ勞働組合法案ヲ作成致シマシタ
其ノ要點ヲ略述スレバ、本法ハ第一
ニ團結權ノ保障ニ依リ勞働者ノ地位ノ
向上ヲ圖リ、經濟ノ興隆ニ寄與スルコ
トヲ目的トシタコトデアリマス、第二
ニ勞働組合ノ團體交渉「ビケッティン
グ」其ノ他ノ爭議行爲等ニシテ正當ナ
ルモノニハ刑罰及ビ警察取締規定ノ適
用ヲ排除シ、又使用者ニ於テ勞働者ガ
前述ノ行爲ニ妨害ヲ加ヘタリ損害賠償
ヲ要求スルコトハ出來ナイモノトシタ
點デアリマス、第三ニ組合ノ結成運営
ハ成ベク自主のニ行ハシメルト共ニ、
其ノ經營スル共濟事業等ノ福利事業ハ
之ヲ保護シ、又相當ノ免稅ノ恩典ヲ與

ヘテ、其ノ健全性ト永續性トヲ助成セ
ントシタコトデアリマス、第四ニ組合
ト使用者トノ間ニ結バル、勞働協約ニ
ハ、其ノ勞働能率ノ向上ト産業平和ノ
維持ノ上ニ重要ナル意義ヲ持ツコトヲ
明カニシ、特ニ之ニ法的拘束力等ヲ附
與シタ點デアリマス、第五ニ勞働組合
ヲ中心トスル勞働ニ關スル諸般ノ問題
ヲ圓滑且ツ民主的ニ調整セシムル爲
メ、勞働者側、使用者側及ビ中立ノ各
代表者ヨリ成ル勞働委員會ヲソレム、
中央地方其ノ他ニ設置シテ、之ニ所要
ノ職權ヲ附與スルコトニシタ點デアリ
マス
以上申述べマシタ諸點ヲ骨子トシ、
本勞働組合法案ヲ立案致シタ次第デア
リマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛
ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス(拍
手)
○議長(島田俊雄君) 質疑ノ通告ガア
リマス、順次之ヲ許シマス——羽田武
嗣郎君
〔羽田武嗣郎君登壇〕
○羽田武嗣郎君 只今上程ニナリマシ
タル勞働組合法案ニ付キマシテ以下數
點ニ互リマシテ所管大臣ノ御答辯ヲ煩
ハシタイノデアリマス
先ヅ第一點ト致シマシテハ本法案ノ
目的ヲ示スベキ第一條ニ於キマシテ、
當初厚生省ノ原案ニ依リマスレバ、勞
働者ノ經濟的、社會的並ニ政治的地位
ノ向上ト規定セラレテ居ツタノデゴザ
イマスガ、只今御提案ニナリマシタル

ニ依ツテ特ニ發育ノ契機ヲ與ヘラレ、第
一次世界大戰ヲ以テ飛躍的發展ノ時期
ニ入りマシタ、資本ト勞働トノ調整、
社會政策トシテノ勞働問題ガ採リ上ゲ
ラレタノハ「ヴェルサイユ」條約以降ノ
時期デアリマス、斯クシテ大正八、九
年頃ヨリ勞働組合ノ結成ガ促進セラ
レ、之ニ伴フテ勞働組合法ノ制定ガ朝
野ノ問題トナツタコトハ御承知ノ通り
デアリマス、曩ニ昭和六年ノ第五十九
帝國議會ニ於テハ、政府提案ノ勞働組
合法案ガ衆議院ヲ通過致シマシタガ、
貴族院ニ於テ審議未了トナリ、引續キ
滿洲事變ノ勃發ニ依ツテ勞働組合ノ發
達ハ阻止セラレ、勞働組合法ニ對スル
朝野ノ關心モ冷却シテ遂ニ今日ニ至ツ
タノデアリマス、然ルニ最近ノ終戰ト
共ニ我が國ニ於ケル民主主義の傾向ノ
復活強化ハ勞働組合ノ再組織トナツテ
現ハレ、全國各地ニ互リ新シキ組合ノ
結成セラレルモノ相次イデ増加スル傾
向ニアリマス、惟フニ新日本ノ建設ニ
當リ最モ緊急ヲ要スル平和産業ノ再建
ニ當リマシテ、乏シキ資本資源ヲ活用
スル爲ニハ勞働ニ期待スベキ所極メテ
大イナルモノガアルコトハ申スマデモ
アリマセヌ、斯カル時勞働者ヲシテ喜
ンデ勞務ニ當ラシメ、進ンデ其ノ能率
ヲ發揮セシメテ、時代ノ要請ニ即應ス
ル爲ニハ先ヅ勞働者大衆ニ對シテ其ノ
組合結成ニ付キ十分ナル自由ヲ保障
シ、其ノ行動ニ統一ト秩序ヲ保タシ
メルコトガ絕對ニ必要デアリマス、此

ノ目的ノ爲ニハ一面ニ於テ勞働條件ノ
適正化ヲ圖リ、他面勞働意欲ノ昂揚ヲ
圖ルコトガ最モ重要ナ基本ノ要件デア
ルト信ジマス、即チ政府ハ現在勞働組
合ノ結成ガ急速ニ進展シツ、アル事情
ニ鑑ミ、進ンデ是ガ健全ナル育成ヲ助
成スルコトヲ喫緊ノ要務ナリト認メタ
ノデアリマス、斯カル際際聯合國最高司
令官ヨリ政府ニ示サレタ五項目中ニ、
勞働者ノ搾取ト酷使カラノ防衛、及ビ
其ノ生活水準ノ向上ノ爲メ、有效ナル
發言ヲ許容スル如キ權威ヲ與フル爲ニ
勞働組合ヲ促進助長スベキコトガ要請
サレタノデアリマス、仍テ政府ハ朝野
ノ專門の知識經驗ヲ有スル人々ヲ以
テ勞務法制審議會ヲ組織シ、其ノ具
體的成案ノ作成ヲ求メマシタ所、最
近一ノ答申ヲ得タノデ、之ヲ骨子ト
シテ勞働組合法案ヲ作成致シマシタ
其ノ要點ヲ略述スレバ、本法ハ第一
ニ團結權ノ保障ニ依リ勞働者ノ地位ノ
向上ヲ圖リ、經濟ノ興隆ニ寄與スルコ
トヲ目的トシタコトデアリマス、第二
ニ勞働組合ノ團體交渉「ビケッティン
グ」其ノ他ノ爭議行爲等ニシテ正當ナ
ルモノニハ刑罰及ビ警察取締規定ノ適
用ヲ排除シ、又使用者ニ於テ勞働者ガ
前述ノ行爲ニ妨害ヲ加ヘタリ損害賠償
ヲ要求スルコトハ出來ナイモノトシタ
點デアリマス、第三ニ組合ノ結成運営
ハ成ベク自主のニ行ハシメルト共ニ、
其ノ經營スル共濟事業等ノ福利事業ハ
之ヲ保護シ、又相當ノ免稅ノ恩典ヲ與

政府案ニ依リマスレバ、經濟的、社會的、政治的ト云フ三ツノ字句ガ削除サレマシテ、單ニ勞働者ノ地位ノ向上トノミ規定サレテ居リマスルガ、其ノ變更サレシタル理由ヲ御尋ね致シタイノデアリマス

第二ニ御伺ヒ致シタイノハ、本法案第四條第二項ニ於キマシテハ、警察官、消防職員、監獄勤務者ヲ除ク官公吏並ニ國又ハ公共團體ノ使用者ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得ト規定サレテ居ルガ、如何ナル點ニ付キマシテ一般勞働者ト違ツタ規定ヲ勅令ニ於テ定ムル御方針デアルカ、其ノ骨子竝ニ其ノ立法サレタル理由、外國ノ立法例ヲ此處ニ政府ニ依ツテ示サレタイノデアリマス

第三ニ御伺ヒ致シタイノハ、當初ノ厚生省案ノ第十三條ニ於キマシテハ、組合員ガ共濟事業其ノ他福利事業ノ爲ニ特別ニ積立テタル所ノ基金ハ、政治運動ノ爲ニ之ヲ流用スルコトハ出來ナイト規定サレテ居ツタノデアリマス、然ルニ只今提案サレシタル政府案ニ依リマスルト云フト、是ガ流用シ得ルヤウニ改メツテ居ルノデゴザイマス、其ノ理由竝ニ諸國ノ立法例ヲ茲ニ明カニサレタイト思フノデアリマス

第四ニ御伺ヒ致シタイ點ハ、本法運用ニ於テ勞働委員會ノ占ムル地位ト云フモノハ非常ニ重大デゴザイマス、就中勞働者代表、資本家代表以外ノ、即チ官廳ノ任命シマスル第三者委員ノ選

任ガ宜シキヲ得ルカ、所謂仲裁役ニナルベキ其ノ委員ノ問題デアリマスルガ、此ノ委員ノ選任如何ニ依ツテ、本法ガ生キテ來ルカ否カラ決スルモノト存ズルノデゴザイマス、政府ノ意圖スル所ノ此ノ第三者委員會ノ詮衡ノ標準ヲ此ノ際明カニシテ戴キタイノデアリマス

第五トシテ御伺ヒ致シタイノハ、政府ガ勞働者ノ生活擁護ニ對シドレダケノ熱意ヲ持ツテ居ラル、カト云フ問題デゴザイマス、本日ハ言フマデモナク十二月ノ十日デゴザイマス、今次臨時議會ハ會期僅カニ十八日ノ短期ノ議會デゴザイマス、最早會期ハアト四日ヲ殘スニ過ギナイノデゴザイマス、元來斯クノ如キ重要ナル法案ハ、當然議會ノ劈頭ニ提案ヲ致スコトガ、ソレガ政府ノ政治的ナ責任デアリ、眞ニ議會政治、民主主義政治ヲ尊重スル所以デア

ルト深ク考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)政府ノ法案提出ガ其ノ時期ヲ失シタコトハ洵ニ遺憾ノ極ミデゴザイマス、之ニ對スル幣原總理大臣ノ御見解ヲ御尋ねテ致シマス、尙ホ斯カル重要法案ノ圓滿ニ成立ヲ望ムナラバ、本案上程ノ本日ノ此ノ議場ニ於テ、會期延長ヲドノ程度奏請スル御方針デア

明ニ依リマシテ、略々之ヲ知ルコトガ出來タノデアリマス、併シナガラ私ノ見ル所ニ依リマスルト云フト、政府ノ本法案提出ノ態度ハ如何ニモオ座ナリデゴザイマス、無定見デゴザイマス、眞ニ良心ト誠實ト情熱トヲ以テ勞働者ノ生活安定ニ乗出サレタノカドウカ、疑ヒナキヲ得ナイノデゴザイマス、即チ本法案成立ノ曉ニ於テ、勞働者ノ生活ガ果シテ法案ノ豫期セラル、ガ如クニ安定セラル、デアラウカ、確タルオ見透シト御用意ガアツタノデアラウカ、時節柄マア法律デモ作ツテ置ケバソレデ宜イノダト云フヤウナオ座ナリナ、羊頭ヲ掲ゲテ狗肉ヲ賣ルノ處ハナイカ、畫ニ描イタ牡丹餅ニ終ルノ處ハナイカト云フコトヲ心カラ心配致シテ居ルノデアリマス、私ノ見タ所デハ、全國ノ勞働大衆、就中「サラリーマン」階級、官業勞働者群ト致シマシテハ、法律ノ制定ヨリハ差當ツテノ生活難ヲドウシテ呉レカ、謂ハバ花ヨリモ團子ヲ切望シテ居ルノデゴザイマス、此ノ意味ニ於キマシテ本案提出ニ先行シテ、現内閣トシテハ組閣々々ニ、先

ヅ勞働者ニ俸給ニ付キ緊急措置ノ手ヲ打ツテ、活キタ政治ヲシテ欲シカツタノデアリマス、去ル六日ノ豫算總會ニ於テ、此ノ用意ノアルコトヲ明カニサレタコトハ、遲延キナガラ政府ノ誠意ヲ片鱗ヲ示シタモノト致シマシテ敬意ヲ表シテ居ルノデゴザイマス、私ガ申スマデモナク、最近ノ勞働者、就中官公吏、學校職員、會社員等、所謂定額俸給勞働者ノ生活ハ驚クベキ物價高ト、生活物資獲得ノ困難サニ全ク茫然自失、仕事モ手ニ付カナイ現在ノ狀況デゴザイマス(拍手)俸給デハ家族ハ愚カ自分一人デモ食ツテ行ケナイノガ今日ノ實情デゴザイマス、全收入百圓ノ俸給取りガ、二百圓、三百圓ナケレバ生命ヲ維持シテ行ケコトガ出來ナイノデゴザイマス、就職ハシテ居ツテモ、失業者モ同様ノ經濟狀態デアリマス、粒々辛苦ノ貯蓄ニハ最早ヤ限度ガゴザイマス、衣類其ノ他道具類等ノ手持物資ヲ以テ日々ノ食糧獲得ニ狂奔致シテ見タ所デ、是レ亦限度ガゴザイマス、少少ノ物價手當、家族手當デハ如何トモ致シ難イノデゴザイマス、貯蓄モ使ヒ果シ、手持ノ生活物資ヲ放出シタ後ニ、俸給生活者竝ニ其ノ家族ハ一體何處ニ行クノカ、眞ニ痛心ニ堪ヘナイ所デゴザイマス、某高等學校ノ教授ノ一家ガ、闇ハ食ハスト悲痛ナル抗議ヲ、進言ヲ遺シテ、榮養失調デ死ンデ行ツタアノ冷厳ナル現實ハ、總テ千數百萬俸給生活者ノ運命デモアルノデゴザイマス、一體政府ハ今ヤ一刻モ猶餘ノナラナイ切實ナル政府ノ官吏ヲ含ム勞働者ノ今日只今ノ生活問題ヲ、如何ニ見テ居レカ、政府ガ目下立案中ノ優遇案ノ内容ヲ此ノ際明カニシテ、年ノ暮ノ追ル彼等千數百萬ノ勤勞俸給勞働者ノ爲ニ、安堵ノ途ヲ示サレタイノデゴザイマス(拍手)併シナガラ單ナル俸

給竝ニ手當ノ値上ゲノ優遇案ダケデハ、非常ニ速度ヲ以テ上昇致シマス明日ノ物價ニ對シテ追ヒ付クコトハ到底出來ナイノデアリマス、ドウシテモ一方ニ於テハ強力ナ物價政策、就中、購買者ヲモ含ム所ノ暴利取締ニ付キ、即刻斷乎タル處置ニ出デナケレバナラスト存ジマス、現在ノ如ク販賣者又ハ「ブローカー」ノミヲ罰スルコトデハ眞ニ效果ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデゴザイマス、勞働大衆ノ生命ヲ救フ爲ニ札ヲ札トモ思ハヌ戰時利得者ニ鐵槌ヲ下シテ欲シイノデアリマス、又退職文官及ビ遺族ノ中ニハ官吏ノ恩給並ニ扶助料ノ運命ガドウナツテ行クカ、非常ニ心配シテ居ル者ガゴザイマス、政府ノ方針ヲ此ノ際明カニサレタイノデゴザイマス、右ニ付キマシテ大藏大臣、司法大臣ノ具體的ナ方針ヲ御伺ヒヲ致シタイノデゴザイマス

第六點ト致シマシテ私ノ御伺ヒ致シタイノハ、本法運用ノ基本的指導精神ノ問題デゴザイマス、本法案第二十一條ニ於テハ勞働協約締結セラレタル時ニ於キマシテハ當事者互ヒニ誠意ヲ以テ之ヲ遵守シ、能率ノ増進ト產業平和ノ維持トニ協力スベキモノト規定シテ、勞資協力主義ガ本法運用ノ基本的ノ指導精神ニナツテ居ルト解セラルルノデアリマス、法的根據ニ基キ弱キ勞働者ニ團結權ト團體交渉權ト「ストライキ」ノ權利ヲ認メマシテ、此ノ後口桶ノ下ニ勞資協力主義ヲ以テ勞資關

係ヲ維持スルノ爲メ、所謂定額俸給勞働者ノ生活ハ驚クベキ物價高ト、生活物資獲得ノ困難サニ全ク茫然自失、仕事モ手ニ付カナイ現在ノ狀況デゴザイマス(拍手)俸給デハ家族ハ愚カ自分一人デモ食ツテ行ケナイノガ今日ノ實情デゴザイマス、全收入百圓ノ俸給取りガ、二百圓、三百圓ナケレバ生命ヲ維持シテ行ケコトガ出來ナイノデゴザイマス、就職ハシテ居ツテモ、失業者モ同様ノ經濟狀態デアリマス、粒々辛苦ノ貯蓄ニハ最早ヤ限度ガゴザイマス、衣類其ノ他道具類等ノ手持物資ヲ以テ日々ノ食糧獲得ニ狂奔致シテ見タ所デ、是レ亦限度ガゴザイマス、少少ノ物價手當、家族手當デハ如何トモ致シ難イノデゴザイマス、貯蓄モ使ヒ果シ、手持ノ生活物資ヲ放出シタ後ニ、俸給生活者竝ニ其ノ家族ハ一體何處ニ行クノカ、眞ニ痛心ニ堪ヘナイ所デゴザイマス、某高等學校ノ教授ノ一家ガ、闇ハ食ハスト悲痛ナル抗議ヲ、進言ヲ遺シテ、榮養失調デ死ンデ行ツタアノ冷厳ナル現實ハ、總テ千數百萬俸給生活者ノ運命デモアルノデゴザイマス、一體政府ハ今ヤ一刻モ猶餘ノナラナイ切實ナル政府ノ官吏ヲ含ム勞働者ノ今日只今ノ生活問題ヲ、如何ニ見テ居レカ、政府ガ目下立案中ノ優遇案ノ内容ヲ此ノ際明カニシテ、年ノ暮ノ追ル彼等千數百萬ノ勤勞俸給勞働者ノ爲ニ、安堵ノ途ヲ示サレタイノデゴザイマス(拍手)併シナガラ單ナル俸

給竝ニ手當ノ値上ゲノ優遇案ダケデハ、非常ニ速度ヲ以テ上昇致シマス明日ノ物價ニ對シテ追ヒ付クコトハ到底出來ナイノデアリマス、ドウシテモ一方ニ於テハ強力ナ物價政策、就中、購買者ヲモ含ム所ノ暴利取締ニ付キ、即刻斷乎タル處置ニ出デナケレバナラスト存ジマス、現在ノ如ク販賣者又ハ「ブローカー」ノミヲ罰スルコトデハ眞ニ效果ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデゴザイマス、勞働大衆ノ生命ヲ救フ爲ニ札ヲ札トモ思ハヌ戰時利得者ニ鐵槌ヲ下シテ欲シイノデアリマス、又退職文官及ビ遺族ノ中ニハ官吏ノ恩給並ニ扶助料ノ運命ガドウナツテ行クカ、非常ニ心配シテ居ル者ガゴザイマス、政府ノ方針ヲ此ノ際明カニサレタイノデゴザイマス、右ニ付キマシテ大藏大臣、司法大臣ノ具體的ナ方針ヲ御伺ヒヲ致シタイノデゴザイマス

係ラ善處セントスルコトハ、社會正義ノ上ニ於テ確カニ一段ノ進歩デゴザイマス、昭和六年カラ今日ニ至ルマデ、勞働組合法ガ日ノ目ヲ見ズニ冬眠シテ居タコトハ、我が國社會正義公平ノ爲ニ洵ニ遺憾トスル所デゴザイマス、唯併シ何ト申シマシテモ、血ヲ以テ闘ヒ取ツタ諸外國ノ勞働組合法ノ沿革ニ鑑ミマシテ、本法案ノ出發點ハ勞働者階級ト資本家階級ノ對立デアリ、國爭デアノコトハ擬ヒモナイノデアリマス、殊ニ本法案ノ立案ニ參畫致シマシタル勞務法制審議會ノ答申ニ基キ、厚生省案トシテ最初閣内ニ回付セラレタル所ノ原案ノ第二條ニ於キマシテハ、勞働組合「ストライキ」ニ當ツテハ、苟クモ組合ノ爲ニスル組合員ノ第一條ノ精神ニ基テ行爲ハ之ヲ罰セズト規定シ、サウシテ列擧ノ二刑法モ、暴力行爲等處罰ニ關スル法律モ、警察犯處罰令モ、行政執行法モ、出版法等ノ所謂刑罰法規並ニ取締法規ハ適用シナイト規定ヲ致シ、一見如何ナル暴行モヤリ放題デアアル、取締官憲モ手ガ著ケラレナイト云ツタ無警察、非法治國家ノ印象ノ濃厚ナ規定ガゴザイマシタ、少クモ治外法權ノ行過ギタ保護ヲ、一方ノニ勞働組合ニノミ與ヘテ居ツタト解セラレ、所ノ條文ガアツタコトハ隠レモナキ事實デゴザイマス、是デハ勞働組合ノ力ノミノ過當ニ大キナリマシテ、本法運用ノ指導精神デアリマス勞資協力主義ノ實現ハ絕對ニ出來ナイト存

ズルノデゴザイマス、斯クテハ唯產業ノ不振ト、勞働大衆ノ失業トガ待ツテ居ルダケデゴザイマス、多分閣議ヲ修正ラ見タモノト存ジマスガ、當然ノコトデゴザイマス、長イ戰ニ疲弊困憊其ノ極ニ達シ、而モ「ビー」二九ト、原子爆彈ト、艦砲射撃トニ打チノメサレ、燒盡サレタル我ガ產業施設ハ、一朝一夕ニ之ヲ復興スルコトハ到底出來ナイノデアリマス、悲シキ敗戰ノ我が國ノ現狀ハ、階級闘爭ダケデハ、之ヲ救ツテ行クコトハ出來ナイノデゴザイマス、言フマデモナク產業ハ勞働ト資本トノ結合ニ依ツテ興ツテ參リマス、何レヲ重シトシ、何レヲ輕シトスルコトハ出來マセヌ、私ハ飽クマデ社會正義ト公平ノ見地ニ立ツテ、兩者ノ關係ヲ見テ行キ、律シテ行ベクキデアルト信ジテ居リマス、資本ト勞働トノ結合ニ依リ、漸クアノ燒野原ニモ再び工場ガ復興スルノデゴザイマス、是ニ於テ初メテ勞働者ノ存在ガアリ、失業問題ノ解決ノ曙光ガ見出サレ、サウシテ又國民生活物資並ニ食糧輸入ニ對スル見返リ物資ノ生産ガ出來テ、茲ニ初メテ國民生活ノ安定ノ途ガ開カレルノデゴザイマス、元來社會立法ハドウシテモ世界ノナル影響ヲ受クルコトハ當然デゴザイマスルガ、併シナガラ各、其ノ國ノ現實ノ國情ト、時代ノ要求スル其ノ國ノ社會正義ヲ根軸トシナケレバ机上ノ空論ニナツテシマフ

ト存ジマス、借物デハイケナイノデゴザイマス、今日ノ日本ノ現狀ヲ以テスレバ、敗戰日本ヲ救フ所ノ社會正義ノ基調ハ、本法ノ所謂勞資協力主義デモ、或ハ大正六、七年來唱ヘラレテ居リマシタアノ生緩イ勞資協調主義デモ、或ハ戰時中勞働強制ノ武器トナツテ居リマシタル官製ノ產業報國主義デモナイト信ジマス、即チ私ハ新日本建設ノ勞資關係ノ最高指導精神ハ、協同自治主義デナケレバナラナイト信ジテ居リマス、企業家ト勞働者ガ眞ニ協同一體トナリ、他カラ強ヒラレルコトナク、自治的ニ、自發的ニ産業ノ復興ヲ圖リ、民族ノ没落ヲ救ハナケレバナラナイト存ジマス、恰モ破産ヲ宣セラレタル一家ガ、相變ラズ親子喧嘩ヲ致シテ居ツタノデハ、結局一家ノ破滅アルノミデアリマス、親子一家氣ヲ揃ヘ、相愛シ、相敬シ、眞ニ一體トナツテ新規時直シニ、明朗ニ奮闘スル以外ニ家ノ再興ヲ見ルコトハ出來ナイト存ジマス（拍手）然ルニ最近ノ世相ヲ見マスルト、一部分ノ人達トハ云ヘ、畏クモ陛下ニ對シ奉ツテ、アノ堪エ難キ罵詈雑言ヲ聞キマス、言論ノ自由トハ申セ、客觀性ト事實ヲ無視シタル、全ク獨善的ナ、行キ過ギタ、極端ナ物ノ見方ガ横行シテ居リマス、利己的ナ、自分本位ノ物ノ考ヘ方ガ行ハレテ居リマス、食糧問題ヲ總ル都市ト農村ノ深刻ナル對立、學校ノ榮國ノ野榮ノ分配ヲ總ル淺マシキ師弟ノ對立、學校「ストライキ」、又少女達ノ無反省テ姿、日夜

目ニ餘ル道義類廢ノ種々相、騒然タル物情、正ニ國家民族ハ混亂ヘ、破滅ヘト悲シキ進退ヲ續ケテ居リマス（拍手）遺憾ナガラ其處ニハ、平和新日本建設ノ明ルイ、地道ナ、而モ積極的ナ、サウシテ冷靜ニシテ科學的合理性アル國家再建ノ大道ヲ歩ム眞摯ナ姿ハ、未ダ餘リ多ク見受ケルコトガ出來ナイノデゴザイマス、以上申述ベマシタヤウナ社會環境ノ下ニアル今日ノ日本ノ產業界ノ實情ハ、勞資協同ニ依ル外、アノ荒涼タル焦土ニ工場ノ煙モ上ラナケレバ、都市ノ復興モ困難デアルト存ジテ居リマス、我ガ日本進歩黨ガ立憲ノ宣言並ニ綱領ノ中ニ、敢テ自治協同ノ字句ヲ用ヒタ所以ノモノモ全ク茲ニ存スルノデゴザイマス（拍手）政府ハ本勞働組合法運籌ノ基本的指導方針トシテ、協力主義ヲ協同主義ニ改ムル御意思ガナイカ、敢テ幣原總理大臣ノ所信ヲ御尋ネ致シタイノデゴザイマス、協同主義ニ依リ産業ノ再建ヲ圖ラントスルニハ、政府モ、勤勞者モ、企業家、資本家モ、從來ノ考ヘ方ヲ根本的ニ是正ヲ要スルノデゴザイマス、即チ先ヅ企業家資本家ノ反省ノ問題デゴザイマス、勤勞階級ノ國民的感情カラ申シマスレバ、戰時中ノ企業家ノ勞働觀、勤勞管理ノ構ヘト云フモノハ全ク適切ヲ缺イテ居ツタノデアリマス、特ニ徵用工ニ對シテ執ツタ所ノ經營者ノ態度ハ、如何ニモ軍官ノ權力ヲ背景トシ、人格ヲ無視シタル高壓的態度ニ

出デマシタ、恰モ國策ノ鞭ヲ以テ溫順ナル小羊ノ群ヲ驅使スルノ觀ガナカラダデアリマセウカ、勞働者ノ用食糧ヲ重役ノ宅ニ運シタ事實ハナカツタデゴザイマセウカ、仕事ノナイ勞働者ヲ温存スル利己的ナ態度ハナカツタデゴザイマセウカ、一々枚舉スレバ邊ガゴザイマセヌ、是等ノ事實ハ勞働者ニ對シ、深刻ナ惡感情ヲ懷シ深ク植付ケテシマツタノデゴザイマス、更ニ終戰時ニ於ケル企業家ノ處理ニ於テ、財政的ニ餘力ナキモノハ已ムヲ得ナイト致シマシテモ、餘力アルモノニ於テスラ、一片ノ解散ノ形式ニ依ツテ、三箇月ノ手當ヲ追放ラシテシマツタ事實、勤勞學徒ニ對スル冷淡極マル仕打、或ハ軍ノ一部ト結托シテ不正ノ利得ヲ得タ事實、工場ノ物資ノ不正處分問題等、目ニ餘ル火事泥の事實ヲ見セ付ケラレテ、痛憤措ク能ハザルモノガアツタノデアリマス（拍手）隨テ企業家、資本家ハ是等ノ事實ヲ眞ニ反省直視シテ、勤勞觀ヲ全ク一新シテ、今後ノ産業復興ニハ勞資一體協同ノ體制ノ下ニ、眞摯ナル再出發ヲ要スルト存ズルノデアリマス（拍手）併シナガラ一面ニ勞働者側ニ於テモ、事業ガ興ラナカツタナラバ勞働ハゴザイマセヌ、此ノコトヲ深ク認識シテ、今日ハ階級闘爭ノ秋デハナイ、勤勞ヲ以テ國ヲ救フ、即チ勤勞救國ノ憂國ノ至情ヲ振ヒ起シテ、勞資協同體制ノ確立ノ急務ニ徹サナケレバナラナイト信ジマス（拍手）殊

ニ資本家ガ労働組合運動ノ勃興ト「ブ
ローカー」ノ跋扈ヲ悞レテ、事業ニ手
ヲ着ケルコトヲ躊躇シテ居ル所ノ事實
ヲ見逃シテハナラスノデアリマス、右
ニ申述ベシタル見地ニ立ツテ、私ハ
今後ノ企業ノ新體制ノ一ツノ行キ方ニ
付テ、政府ノ御所見ヲ御同ヒヲ致シ
マス

過般朝日新聞並ニ毎日新聞デハ、經
營ノ民主化ガ行ハレタノデアリマス、
即チ朝日新聞ニ於キマシテハ、資本案
タル村山、上野兩家ガ社主ノ地位ヲ退
イテ、重役陣ヲ全ク更新シテ、多年先
輩社員トシテ功勞ノアツタ人々ガ經營
ノ任ニ當ルコトニナリ、謂ハバ資本ト
經營ノ分離ガモノノ見事ニ行ハレタノ
デアリマス、又毎日新聞ニ於キマシテ
ハ、全重役ノ退陣ノ後ニハ社員、即チ
本法ノ労働者ノ總意ニ基キ、社員ノ中
ヨリ新進ノ重役ガ推薦セラレタノデ
アリマス、經營者ト労働者ハ直結セラ
レ、兩者ノ間ニハ脈々タル温カキ血ガ
通ヒ、對立ハ全クナイノデゴザイマ
ス、私ハ此ノ二ツノ事實ハ我が國產業
界ニ於ケル一大革命ト考ヘテ居リマ
ス、經營ノ民主化、勞資ノ全面的協力
體制ノ確立ト考ヘテ居ルノデゴザイマ
ス、此ノ新シキ勞資關係、新シキ企業
體制ノ新日本建設ノ方向ヲ示スモノ
ト考ヘマスルガ、政府御當局ノ見解ハ
如何デゴザイマスカ、御尋ネテ致シタ
イノデゴザイマス

政府ノ渉外交渉ノ態度ノ問題デゴザイマ
ス、本法案ノ議會提出ノ遅レマシタル
理由ノ一ツハ、「マツカリー」司令部
トノ連絡ノ圓滑ヲ缺イタ爲メデハナイ
カ、存ジマス、敗戦日本ヲ指導スルモ
ノハ悲シイカナ「マツカリー」司令部
デゴザイマス、合理性ト率直ヲ好ム米
軍ニ對シテハ、誠意ト率直ヲ以テ當
シタナラバ、之ヲ容レルニ吝カデナイ
ト信スルノデアリマス、話セバ分ル筈
デゴザイマス、然ルニ現内閣ノ中央部
ニシテモ、又地方ノ官憲ニ致シマシテ
モ、從來ノ官僚ノ弊タル尊太サト社交
性ノナイコト、ギョチナサ、廻リ諄ク
形式的ニコダハル所ノ事務ノ非能率サ
ニ禍ヒサレテ居ナイカドウカ、敬シテ

遠ザカル風ハナイカ、或ハ時ニ徒ラニ
阿附追從ノ風ハナイカ、熱誠ト迫力ト
機動性ニ缺クル所ハナイカ、日本民族
ノ傳統ト信念デアル上、天皇制ノ問
題カラ、下ハ八千萬國民ノ食糧問題ト
云フ未會有ノ難局ニ直面シテ居リマス
ダケニ、此ノ政府ノ態度、地方官憲ノ
態度ハ眞ニ痛心ニ堪ヘナイノデゴザイ
マス（拍手）受身ノ卑屈ナ態度ヲ排シ、
「ボツダム」宣言受諾ノ線ニ沿ツテ
「マツカリー」司令部ノ眞意ヲ酌ミ、
先手々々ト勇敢ニ、率直ニ諒解ヲ求
メ、國難突破ニ邁進ヲ致シテ行カナケ
レバナラナイノデゴザイマス、右ニ關
スル政府ノ所信ヲ幣原總理大臣ニ御伺
ヒテ致ス次第デアリマス
最後ニ私ハ第八點ト致シマシテ御伺

ヒ致シタイコトハ、最近ノ輿論ノ傾向
ハ軍閥ニ對スル反感ノ爲ニ、善良ナル
一般復員軍人ニ對シマシテモ反感ヲ持
ツテ、其ノ平和産業ニ進出スルコトヲ
拒ムノ風ガゴザイマス、善良ナル國民
ト雖モ世間ノ誤解ノ爲ニ糧道ヲ絶タレ
ル時、行クベキ道ハ左翼、共產主義ノ
方向デアリマス、國家否定ノ方向デア
リマス、斯クテハ國家トシマシテモ、
個人トシマシテモ、事志ト違ヒマシテ
遺憾千萬ノコトデゴザイマス、是等ノ
復員者ニ對スル對策ニ付キ幣原復員大
臣ノ御方針ヲ御尋ネスル次第デゴザイ
マス、以上ヲ以テマシテ私ノ質疑ヲ終
リマス（拍手）

（國務大臣菅田均君登壇）
○國務大臣（菅田均君） 只今羽田君ヨ
リノ御質問ニ對シマシテ、厚生大臣ノ
所管ニ關スル點ニ付テ私ヨリ御答ヘ致
シマス、羽田君ノ御尋ネノ第一點ハ勞
務法制審議會ノ答申案ニ依レバ、第一
條ニ労働者ノ經濟的、社會的並ニ政治
的地位ノ向上ヲ助ケ云々ト規定シテア
ツタノヲ、政府提出案ニ於テハ、労働
者ノ地位ノ向上ヲ圖リト簡單ニナツテ
居ルガ、ソレハドウ云フ理由デアルカ
ト云フ御尋ネデアリマス、御承知ノ通
リニ労働組合ヲ組成致シマスル主たる
組合ノ目的ハ、後ノ條項ニ出テ居リマ
ス通り、主トシテ經濟條件ノ改善、經
濟的地位ノ向上ガ眼目ニナツテ居ルノ
デアリマス、隨ヒマシテ第一條ニ於テ
答申案ノ如ク經濟的、社會的並ニ政治

的地位ノ向上ト並ベテ書ク場合ニハ、
労働組合並ニ労働組合法ノ主たる目的
ヲ曖昧ニスル處ガアルト云フコトガ一
ツノ理由デアリマス、無論労働者ノ地
位ノ向上ヲ圖リト書キマシタ以上ハ、
其ノ主たる目的ガ經濟的地位ノ向上デ
アラウトモ、其ノ他ノ、例ヘバ福利施
設、或ハ圖書館、或ハ研究所ノ設置等
ニ依ル文化的、社會的ノ地位ノ向上デ
アラウトモ、之ヲ圖リ得ルノデアリマ
ス、又社會的、經濟的地位ノ向上ニ必
要ナル部門ニ於ケル或ル程度ノ政治的
ノ向上ヲ圖リ得ルト云フコトハ問題ハ
ナイノデアリマス、第一條ニ於テ簡單
ニ致シマシタ理由ハ、是等ノ理由ニ外
ナラヌ次第デアリマス

第二問ハ組合法案ノ第四條ニ國又ハ
公共團體ニ使用セラル、者ニ關シテハ
命令ヲ以テ特別ノ定ヲナスコトヲ得ト
アルガ、其ノ官吏ノ特殊ノ地位ヲ定ム
ル規定ハドウ云フ條項デアルカト云フ
御尋ネデアリマス、是等ノ官吏ノ地位
ヲ定ムル爲ニハ、特ニ命令ヲ以テ特別
定ヲスル管デアリマスガ、其ノ内容ハ
今日未ダ確定トマデハ參ツテ居リマセ
ス、大體ノ方針ト致シマシテハ、第一
ニ官吏公吏其ノ他公共團體ニ使用セラ
ル、者ハ、調停又ハ仲裁ニ掛ケ、其ノ
調停又ハ仲裁ガ成立シナイ場合ノ外爭
議行爲ヲナスコトヲ得ナイト云フノガ
第一點デアリマス、第二ハ、是等ノ者
ガ爭議行爲ヲナシ、又ハナサントスル
處アル場合ニハ、行政官廳ハ之ニ對シ

必要ト認メル時ニハ爭議行爲ノ中止命
令、其ノ他必要ナル命令ヲ出スコトガ出
來ルト云フノガ第二點デアリマス、第
三ニハ、是等ノ者ガ政治運動ニ携ハラ
ントスル時ニハ、必要ニ應ジテ労働委
員會ノ決議ニ依リ行政官廳ガ其ノ禁止
又ハ制限ヲナスコトガ出來ル、是ガ第
三點デアリマス、大體是等ノ點ヲ眼目
トシテ別ニ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲナス
積リデアリマス

質疑ノ第三點ハ法案第十三條ニ、勞
働組合ハ共濟事業、福利事業等ノ爲ニ
設ケタ基金ヲ他ノ目的ノ爲ニ流用セン
トスル時ハ總會ノ決議ヲ經ベシト書イ
テアルガ、是ヲ政治運動ノ爲ニ流用ス
ルコトハ禁ジテハナイノカ、一時是等
ノ基金ヲ政治資金ノ爲ニ流用スルコト
ヲ認メルカノ如キ意向ガアルトモ聞イテ
居ツタガ、本案ニ於テハ政治資金ニ流
用シ得ルコトニナツタノハドウ云フ譯
デアルカト云フ御尋ネデアツタト思ヒ
マス、此ノ點ニ付キマシテハ種々考慮
致シマシタ、併シナガラ現ニ労働組合
ノ從屬ノ目的ノ中ニ、或ル程度ノ政治
運動ヲナスコトハ認メテ居リマス、現
ニ労働總同盟ガ成立致シマシタ時ニモ、
労働總同盟ハ社會大衆黨ヲ支持スル
云フ規約ヲ持ツテ居リマシタガ、當時何
等ノ之ニ對シ民間カラモ、官廳ノ方カラモ
制限ヲ加ヘルコトヲ致サナカツタノデ
アリマス、ソコデ從屬ノ目的トシテ或
ル程度ノ政治運動ハ之ヲ認メルトシタ
以上、總會ノ決議ニ依ツテ労働組合ノ

其金ヲ之ニ流用スルト云フコトハ禁止スル運動ガナイ、固ヨリ労働組合ハ政治運動、社會運動ヲ主タル目的トスルモノデハアリマセズ、隨テ其ノ流用ノ程度ニ於テハ無論此ノ制約ヲ受ケルコトハ申スマデモナイト存ジマス

第四ノ御質問ハ、法案第二十六條ニ、

労働委員會ニ加ヘルベキ第三者ニ付テ、労働委員會ニハ資本家ト労働者ト、サウシテ第三者ノ代表者ガ同數相集マツテ委員會ヲ組織スルト云フコトニ相成ツテ居リマス、其ノ第三者ノ選任ノ方針ヲドウ云フ點ニ置イテ居ルカト云フ御尋ネデアリマス、此ノ第三者代表ト稱スル者ハ、學識經驗アル者ノ中カラ労働側及ビ資本側ノ同意ヲ得テ之ヲ委嘱スルノデアリマス、隨テ世間一般ノ評判カラ見テ立派ナ學識經驗アリ、且ツ其ノ判斷ガ中庸ヲ得テ居ル如キ人ヲ第三者代表トシテ選フ方針デ居リマス、以上御質問ノ點ニ付テ簡單ニ御答ヘ致シマス

〔國務大臣(男爵幣原喜重郎君登壇)〕

○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 只今ノ御質問ハ私ニ對スル部分ノ第一點ハ、今日斯カル重要法案ヲ提出スルコトニナツタノハ政府ノ意圖デハナイカト云フコトデアリマス、實ハ本案ニ付キマシテハ、組閣ノ當初カラ直チニ研究ニ着手致シタノデアリマス、各方面ノ意見ヲ十分ニ酌致ス必要ガアツタノデ、成案ヲ得ルノガ意外ニ遅レタノデアリマス、本案ノ重要性ニ顧ミマシテ

萬已ムヲ得ナカッタノデアリマス、決シテ政府ガ怠慢デアツタト云フヤウナ事實ハナイノデアリマス、此ノ點ハ能ク御諒蒙ヲ願ヒタイノデアリマス、政府ト致シマシテハ皆様ノ御協力ノ御理解ニ依リマシテ、本案ノ速カナル成立ヲ期待致シテ居ルノデアリマス、又熱望モ致シテ居ルノデアリマス

ソレカラ第二點ニ、本法適用ノ基本

的指導方針ニ付テノ御質問デアリマス、此ノ際我ガ政治上ノ改革ノ最モ重要ナル目標ノ一ツハ、労働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ、其ノ意向ヲ十分ニ暢達セシムルト云フコトデアリマス、此ノ目標ノ實現ハ延イテハ生産ノ興隆ニ密關スル所以デアルト信ジテ居リマス、萬一全體主義ナドノ思想ニ依リマシテ、労働者ノ人格ヲ尊重セズ、之ニ高壓的態度ヲ以テ臨ムト云フヤウナコトガアリマシテハ、結局ハ生産増進ニ資スル所以デアリマセズ、我々ハ斯ウ云ツタヤウナ方針デ此ノ法ノ適用ニ當リタイト考ヘテ居ルノデアリマス

ソレカラ第三點ニ政府ノ涉外交渉

ノ態度ニ付テデアリマス、政府ト聯合ノ總司令部トノ折衝ハ、終戰直後ニ於キマシテハ機構ノ不備等モアリマシテ、連絡ガ圓滑ヲ缺イタ事績モアツタノデアリマス、其ノ後漸次遅レテ取返シマシテ、最近ハ相當改善ノ跡ヲ示シツ、アルト思ツテ居リマス、尤モ我ガ方ノ措置振リガ緩慢デアルト云フ點ハ今尙ホ聞エマス、關係官廳間

ノ連絡、民間トノ連絡協力ニ意ヲ用ヒルヤウ奮勵致シマシテ、我々ハ熱意ヲ以テ、眞劍ニ此ノ目的ヲ達スルヤウニ、連絡モ圓滑ナラシムルヤウニ事ニ當ツテ居ルノデアリマス

ソレカラ其ノ次ニハ、復員軍人ノコ

トニ付テノ御尋ネデアリマス、善良ナル復員軍人ガ平和産業ニ復歸スルノヲ拒ムト云フヤウナコトガアツテハナリマセズ、是ハ政府ニ於キマシテハ失業對策ノ一環トシテ、關係ノ各機關ニ於テ復員者ノ就職ノ斡旋ニ極力努メテ居ル次第デアリマス、併シナガラ是ハ政府タケデハ其ノ目的ヲ達シマセズ、何卒國民全般ノ理解ト協力トニ俟ツテ、此ノ目的ヲ全ウ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス

〔國務大臣(子爵渡邊三三君登壇)〕

○國務大臣(子爵渡邊三三君) 只今ノ御質問ニ對シマシテ御答ヘ申上ゲマス、定収入ノ官公吏其ノ他ノ方々ニ對シマスル給與ニ付キマシテハ、最近ノ情勢ニ鑑ミマシテ眞ニ痛心ヲ致シテ居リマス、目下ノ所本格ノ改正ヲ致ス前ニ、暫定ノ臨時時ノ手當ヲ支給スルト共ニ、現在支給シテ居リマス所ノ臨時家族手當ノ大幅増額ヲ行ヒタイト考ヘテ居リマス、之ニ依リマシテ家族ノ多イ方々ニ付キマシテハ相當ノ實收ノ増加ヲ見ルモノト思ツテ居リマス、其ノ詳細ニ付キマシテ目下聯合國司令部ニ承認ノ手續中デゴザイマス、只今申上ゲルコトヲ差控ヘルコトヲ御許シ願

ヒタイト存ジマス、尙ホ増俸ニ依リマシテ物價問題ガ解決スルトハ毛頭考ヘテ居リマセズ、差當リ生活ノ困難ヲ多少トモ緩和スル爲ニ、此ノ方法ヲ執ルコトヲ致シマシテ、物價政策ト致シマシテハ是ト全ク別個ニ、戰後ノ物價水準ト、之ニ依リマス各物資ノ價格ノ「バランス」ヲ適當ノ所ニ求メマシテ、統制スベキモノハ嚴重ニ統制シ、ソコニ安定ヲ得セシメタイト、目下折衝各種ノ檢討ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス

次ニ軍人ノ恩給ニ付キマシテハ、來

年ノ二月一日マデニ支給ヲ差止メル措置ヲ執ルコトニナツテ居リマス、二月一日マデハ支給スルノデアリマス、其ノ以後支給ハ差止メルコトニナツテ居リマス、是ガ爲ニ生活困難ヲ來ス方々ニ對シマシテハ、軍人ト云フ特殊ナ階級トシテデナク、一般社會政策ト致シマシテ、適當ニ處置スルコトヲ致シマシテ、目下鏡意研究中デゴザイマス、尙ホ在外部隊ノ留守宅ニ對シマシテハ、歸還復員サレルマデ從來通り家族渡シヲ續ケテ參ルコトヲ致シタイト考ヘテ居リマス、以上御答ヘ申上ゲマス

〔國務大臣(小笠原三九郎君登壇)〕

○國務大臣(小笠原三九郎君) 羽田君ヨリ商業民主化ノ方策ノ一ツトシテ、資本ト經營ノ分離ニ關スル御尋ネガゴザイマシタガ、政府ト致シマシテハ、商業民主化ノ實現ニ付テハ、企業者ト企業者トノ關係ニ於テハ公正ナル競争ヲ具

現セシムルコト、企業者ト消費者ノ關係ニ於テハ相互ノ選擇ノ自由ヲ與フルコト、企業者ト労働者トノ關係ニ於テハ團體契約ヲ認ムルコト、產業界ト政府トノ關係ニ於テハ、政府目録ヲ民主主義的ナ政府ニ致シマスルト共ニ、業界ニ可及的廣範圍ノ自治ヲ與ヘルコト、此ノ四ツノ目標ヲ達成スルコトニ依リマシテ、一應全面的ニ産業經濟ノ民主化ヲ圖ルコトガ出來ルト考ヘテ居ルノデアリマス、而シテ其ノ根本ヲ實クモノハ、羽田君ガ仰セラレタ協同自治ヲナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

(拍手)然ラバ資本ト經營トノ分離ニ付

テドウ考ヘテ居ルカ、政府ハ企業經營ノ基礎ヲ關係者相互ノ尊重ト協力トニ置キマシテ、企業經營ニ際シテ企業者ノ意見ヲ十分ニ反映セシムルコトニ努ムルヤウ相互ノ理解ト信頼トヲ増進セシメタイト考ヘテ居リマス、此ノ精神ニ基キ企業者ト從業者トガ結合ツテ、相互ノ合意ニ依リ企業經營ニ從業者ヲ参加セシムルコト、或ハ企業ノ株式ノ所有ヲ分割スルコト等ハ結構ナコトト考ヘマスルガ、政府トシテハ制度の資本ト經營トヲ分離セシムルガ如キ考ヘハ持ツテ居リマセズ、御答ヘテ致シマス

〔國務大臣(若田寅造君登壇)〕

○國務大臣(若田寅造君) 只今羽田君ノ御尋ネノ中デ司法關係ノコトニ付テ一言御答ヘテ申上ゲマス、司法ノ經濟警察ニ關係致シマスル事柄ハ非常ニ困難ナ立場ニ居ルノデアリマス、現

在ノ情勢ニ於キマシテハ、生活必需品ノ價格ノ暴騰ニ依リマシテ、給料生活者其ノ他一般ノ人ガ非常ニ困難ニ遭遇シテ居ルト云フコトハ御説ノ通りデアリ、顯著ナ事實デゴザイマシテ、此ノ點ニ付キマシテ、勿論取締ニ依ツテ根本的ニ之ヲドウスウト云フコトノ不可能ナコトハ申スマデモナイコトデアリマスガ、司法ノ方面カラモ其ノ一部ノ援助ヲシナケレバナラヌデアリマシテ、之ニ付キマシテハ米穀等ノ主要食糧品ニ對シマシテハ、其ノ横流ヲ防ギ、供出ヲ増進スル爲ニ、唯生産者方面ヤ「プロカー」ト云フヤウナモノバカリデナク、消費者ノ方ヲモ勿論處罰シテ取締ルノデアリマスガ、尤モ御承知ノ通りノ狀況デアリマスカル、主トシテ大口ノ消費者或ハ營利ヲ目的トスルヤウナ者ニ重キヲ置イテ、嚴重ニ取締ラスル方針デ居リマス、其ノ他獨リ主要食糧品ノミナラズ、先般統制ヲ解除セラレマシタ生鮮食料品等ニ付キマシテモ、隨分價格ガ暴騰致シテ、一般のニ非常ニ困ツテ居ルノデアリマスルカラ、是等ニ對シマシテモ相當ノ取締ハシテ居ルノデアリマスルガ、是ハ暴利行爲等ノ取締規則ニ依リ外ハナイノデアリマシテ、現ニ之ニ依ツテ相當ノ取締ヲシテ居リマス、ノミナラズ現在ノ暴利行爲等ノ取締規則ハ、不完全ナ所モアリマスルノデ之ニ改正ヲ加ヘテ、サウシテ其ノ目的十分ニ達スルコトガ出來ルヤウニ

ト折角考慮中デアリマス、是ダケノコトヲ申上ゲテ置キマス
○羽田武副郎君 簡單デゴザイマスカラ自席デ御許シテ願ヒマス——菅田厚生大臣ニ對シマシテ私ハ外國ノ立法例ヲ求メテ居リマシタガ、此ノ點ハ委員等ニ於テ御答ヘテ願フコトニ致シマシテ、大藏大臣ノ御答辯ノ中ニ御親切ニ軍人ノ恩給問題ニ付キマシテ御話ヲ戴キマシタガ、私ノ質問致シマシタノハ軍人デハナクテ文官ノ恩給問題デゴザイマス、是ハ軍人ノ方ガ停止サレタノデ文官ノ方モ停止サレルコトハナカラウカト言ツテ、年老ヒタル恩給受給者並ニ寡婦ノ人達ガ非常ニ心配ヲ致シテ居リマスノデ、此ノ文官ニ對スル恩給並ニ扶助料ハドウナツタノカト聽キマス、政府ニ於テモ之ニ付テ案ヲ練ツテ居ルヤニ聽キマシタノデ、其ノ輪廓ヲ明カニシ、是等ノ惱ミ、心配ヲシテ居ル人達ニ安心ヲ與ヘルヤウニ願ヒタイ、斯ウ云フ意味デ御質問ヲ致シタノデアリマスルカラ、其ノ點ニ付テ重ネテ御答辯ヲ願ヒタイと思ヒマス

○議長(島田俊雄君) 渡邊泰邦君
〔渡邊泰邦君登壇〕
○渡邊泰邦君 私ハ本法律案提出ニ際シマシテ、敗戦日本ノ現實ノ姿ニ對シテ總理大臣ハ如何ナル見解ヲ御持チニナツテ居ルカト云フコトニ付テ、先ヅ第一ニ御質問致シタイノデアリマス
御承知ノ如ク我々ハ敗戦ノデアアル、敗ケタ以上ハ仕方ガナイ、是カラノ國家ヲ如何ニ盛立テテ行クカト云フ、所謂國家哲學ノ一端ヲ總理大臣ニ御伺ヒシタイノデアリマス、御承知ノ如ク國家ヲ如何ニ論ジテ居ルカト云フ學說ヲ一々申上ゲルノデアアリマセヌ、併シ國家ヲ如何ニ觀察スルカト云フコトニ付キマシテハ「ヘーゲル」流ノ一元國家論、即チ國家ハ自然發生的ノ本然社會デアルト云フ學說ガ「ドイツ」ヲ初メ一般ニ行ハレテ居ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、更ニ英國ノ「スベンサー」流ノ國家ハ派生社會デアアル、極端ニ言ヘバ國家ト云フモノハ個人ノ權利ヲ追求スル機關デアアル、此ノ多元的國家論ハ天皇機關說ヲ生ズノデアリマシテ、斯ウ云フ國家論モ行ハレテ居ルノデアリマス、更ニ階級國家論ト致シマシテハ、國家ハ國民ヲ搾取スル機關デアアル、國家其モノハ人民ヲ搾取スルガ爲メ國家ガ存立シテ居ルト云フ風ハ、共產主義的ナ階級國家論モアルノデアリマス、此ノ劃期的ナ勞働組合法案ヲ制定スルニ當リマシテ、此ノ背景ヲ成ス所ノ國家ハ如何ナル國家

デアルカト云フ、此ノ敗戦日本ノ將來ニ對スル日本ノ國家觀ニ付キマシテ、總理大臣ノ所謂國家觀ヲ此ノ際是非承ツテ置キタイノデアリマス、總理大臣ハ二十年間平和ヲ主トシテ其ノ政治的ノ道ヲ歩マレテ來マシタコトハ、過日ノ豫算總會ニ於キマシテモ拜聴致シタノデアリマス、總理大臣ハ洵ニ平和ヲ愛好セラル、姿ヲ以テ歩ンデ來ラレタコトハ、我々國民ノ能ク知悉シテ居ル所デゴザイマス、モウ再ビ戰爭ハ起スマイ、ドンナコトガアツテモ、日本國民ヲシテ再ビ戰火ノ裡ニ見エシムレトハ、ヤルマイト云フ堅イ信念ヲ御持チニナツテ居ルコトハ能ク承知致シテ居リマス、併シ戰爭ト云フモノハ何モ一人ヤ二人ノ指導者ヤ、或ハ好キ好シデ起ツテ居ルモノデハナイノデアリマス、此ノ戰爭ノ原因ヲ深く掘下ゲテ、更ニモツト深く掘下ゲテ行ケバ、戰爭ノ原因ハ人ニアラズシテ制度ニアル、即チ資本主義制度ガ戰爭ノ本當ノ原因デアルト云フコトヲ、御分リ願ヒタイノデアリマス、サウスレバドウシテモ今後勞働組合法案ヲ制定致シマシテ、國民ヲシテ眞ニ安シジテ産業ニ從事セシメ、小サナ國ニナツタカラ平和産業、或ハ農業ヲ盛ニシテ我々ハ食ベテ行ツテ、更ニ日本ヲ平和的國家ニ再建スルニハ、ドウシテモ戰爭ヲ根本カラ止メサセル所ノ思想的ナ體系ヲ持チ、サウシテ其ノ體系付ケラレタ思想ニ依ツテ、日本ヲ率キテ行クト云フコ

トニナリマス、ドウシテモ資本主義ヲ止メナケレバナラヌト我々ハ考ヘルノデアリマスガ、總理大臣ノ之ニ對スル御觀察ヲ御伺ヒシタイノデアリマス、先程羽田君モ仰シヤツタヤウニ、日本ノ經濟界ハ麻痺狀態ニアリマス、資材、勞務、運輸ハ極端ニ不便デアリマス、資材モナシ、勞務モナシ、運輸ハ極端ニ不便デアリマス、更ニ國家補償ノ未解決ト云フ問題ガ殘ツテ居ル、金融ハ梗塞致シテ居リマス、隨テ軍需産業ガ平和産業ニ切替ヘラルベキ等ノ所、又切替ヘテ如何ニ要求致シマシテモ仕事ハ起キマセヌ、仕事ヲ起サナイ、何故起キナイカト申シマス、仕事ト云フモノハ、御承知ノ如ク利潤ガ基本ヲ成シテ居リマス、金ノ儲カラナイ所ニ資本主義經濟下ニ於キマシテ企業ト云フモノハアリ得マセヌ、金ガ儲カラナイカラ企業ハアリ得ナイ、企業ヲ起サナイカラ失業者ガ起ルト云フ循環論ニナルノデアリマシテ、努力ノ搾取ガ企業ノ根本精神ヲナス限り、敗戦日本ノ今日ニ於テハ企業ト云フモノハ、容易ニ起ラヌト我々ハ判斷スルノデアリマス、隨テ勞働ヲ搾取スル企業ノ根本原因トナスヤウナ所ノ企業ヲ、更ニ一歩前進セシメマシテ、金ヲ儲ケルコトガ主デナク、而モ國營デモナイヤウナ協同組合式ノ企業ガ是カラ日本ニ起キナケレバ、日本ノ産業ト云フモノハ成立チ得ナイト我々ハ考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對スル商工大臣ノ御

ト折角考慮中デアリマス、是ダケノコトヲ申上ゲテ置キマス
○羽田武副郎君 簡單デゴザイマスカラ自席デ御許シテ願ヒマス——菅田厚生大臣ニ對シマシテ私ハ外國ノ立法例ヲ求メテ居リマシタガ、此ノ點ハ委員等ニ於テ御答ヘテ願フコトニ致シマシテ、大藏大臣ノ御答辯ノ中ニ御親切ニ軍人ノ恩給問題ニ付キマシテ御話ヲ戴キマシタガ、私ノ質問致シマシタノハ軍人デハナクテ文官ノ恩給問題デゴザイマス、是ハ軍人ノ方ガ停止サレタノデ文官ノ方モ停止サレルコトハナカラウカト言ツテ、年老ヒタル恩給受給者並ニ寡婦ノ人達ガ非常ニ心配ヲ致シテ居リマスノデ、此ノ文官ニ對スル恩給並ニ扶助料ハドウナツタノカト聽キマス、政府ニ於テモ之ニ付テ案ヲ練ツテ居ルヤニ聽キマシタノデ、其ノ輪廓ヲ明カニシ、是等ノ惱ミ、心配ヲシテ居ル人達ニ安心ヲ與ヘルヤウニ願ヒタイ、斯ウ云フ意味デ御質問ヲ致シタノデアリマスルカラ、其ノ點ニ付テ重ネテ御答辯ヲ願ヒタイと思ヒマス

○議長(島田俊雄君) 渡邊泰邦君
〔渡邊泰邦君登壇〕
○渡邊泰邦君 私ハ本法律案提出ニ際シマシテ、敗戦日本ノ現實ノ姿ニ對シテ總理大臣ハ如何ナル見解ヲ御持チニナツテ居ルカト云フコトニ付テ、先ヅ第一ニ御質問致シタイノデアリマス
御承知ノ如ク我々ハ敗戦ノデアアル、敗ケタ以上ハ仕方ガナイ、是カラノ國家ヲ如何ニ盛立テテ行クカト云フ、所謂國家哲學ノ一端ヲ總理大臣ニ御伺ヒシタイノデアリマス、御承知ノ如ク國家ヲ如何ニ論ジテ居ルカト云フ學說ヲ一々申上ゲルノデアアリマセヌ、併シ國家ヲ如何ニ觀察スルカト云フコトニ付キマシテハ「ヘーゲル」流ノ一元國家論、即チ國家ハ自然發生的ノ本然社會デアルト云フ學說ガ「ドイツ」ヲ初メ一般ニ行ハレテ居ツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、更ニ英國ノ「スベンサー」流ノ國家ハ派生社會デアアル、極端ニ言ヘバ國家ト云フモノハ個人ノ權利ヲ追求スル機關デアアル、此ノ多元的國家論ハ天皇機關說ヲ生ズノデアリマシテ、斯ウ云フ國家論モ行ハレテ居ルノデアリマス、更ニ階級國家論ト致シマシテハ、國家ハ國民ヲ搾取スル機關デアアル、國家其モノハ人民ヲ搾取スルガ爲メ國家ガ存立シテ居ルト云フ風ハ、共產主義的ナ階級國家論モアルノデアリマス、此ノ劃期的ナ勞働組合法案ヲ制定スルニ當リマシテ、此ノ背景ヲ成ス所ノ國家ハ如何ナル國家

デアルカト云フ、此ノ敗戦日本ノ將來ニ對スル日本ノ國家觀ニ付キマシテ、總理大臣ノ所謂國家觀ヲ此ノ際是非承ツテ置キタイノデアリマス、總理大臣ハ二十年間平和ヲ主トシテ其ノ政治的ノ道ヲ歩マレテ來マシタコトハ、過日ノ豫算總會ニ於キマシテモ拜聴致シタノデアリマス、總理大臣ハ洵ニ平和ヲ愛好セラル、姿ヲ以テ歩ンデ來ラレタコトハ、我々國民ノ能ク知悉シテ居ル所デゴザイマス、モウ再ビ戰爭ハ起スマイ、ドンナコトガアツテモ、日本國民ヲシテ再ビ戰火ノ裡ニ見エシムレトハ、ヤルマイト云フ堅イ信念ヲ御持チニナツテ居ルコトハ能ク承知致シテ居リマス、併シ戰爭ト云フモノハ何モ一人ヤ二人ノ指導者ヤ、或ハ好キ好シデ起ツテ居ルモノデハナイノデアリマス、此ノ戰爭ノ原因ヲ深く掘下ゲテ、更ニモツト深く掘下ゲテ行ケバ、戰爭ノ原因ハ人ニアラズシテ制度ニアル、即チ資本主義制度ガ戰爭ノ本當ノ原因デアルト云フコトヲ、御分リ願ヒタイノデアリマス、サウスレバドウシテモ今後勞働組合法案ヲ制定致シマシテ、國民ヲシテ眞ニ安シジテ産業ニ從事セシメ、小サナ國ニナツタカラ平和産業、或ハ農業ヲ盛ニシテ我々ハ食ベテ行ツテ、更ニ日本ヲ平和的國家ニ再建スルニハ、ドウシテモ戰爭ヲ根本カラ止メサセル所ノ思想的ナ體系ヲ持チ、サウシテ其ノ體系付ケラレタ思想ニ依ツテ、日本ヲ率キテ行クト云フコ

トニナリマス、ドウシテモ資本主義ヲ止メナケレバナラヌト我々ハ考ヘルノデアリマスガ、總理大臣ノ之ニ對スル御觀察ヲ御伺ヒシタイノデアリマス、先程羽田君モ仰シヤツタヤウニ、日本ノ經濟界ハ麻痺狀態ニアリマス、資材、勞務、運輸ハ極端ニ不便デアリマス、資材モナシ、勞務モナシ、運輸ハ極端ニ不便デアリマス、更ニ國家補償ノ未解決ト云フ問題ガ殘ツテ居ル、金融ハ梗塞致シテ居リマス、隨テ軍需産業ガ平和産業ニ切替ヘラルベキ等ノ所、又切替ヘテ如何ニ要求致シマシテモ仕事ハ起キマセヌ、仕事ヲ起サナイ、何故起キナイカト申シマス、仕事ト云フモノハ、御承知ノ如ク利潤ガ基本ヲ成シテ居リマス、金ノ儲カラナイ所ニ資本主義經濟下ニ於キマシテ企業ト云フモノハアリ得マセヌ、金ガ儲カラナイカラ企業ハアリ得ナイ、企業ヲ起サナイカラ失業者ガ起ルト云フ循環論ニナルノデアリマシテ、努力ノ搾取ガ企業ノ根本精神ヲナス限り、敗戦日本ノ今日ニ於テハ企業ト云フモノハ、容易ニ起ラヌト我々ハ判斷スルノデアリマス、隨テ勞働ヲ搾取スル企業ノ根本原因トナスヤウナ所ノ企業ヲ、更ニ一歩前進セシメマシテ、金ヲ儲ケルコトガ主デナク、而モ國營デモナイヤウナ協同組合式ノ企業ガ是カラ日本ニ起キナケレバ、日本ノ産業ト云フモノハ成立チ得ナイト我々ハ考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對スル商工大臣ノ御

見解ヲ承リタイノデアリマス、即チ企業ノ徹底の民主化ト云フモノハ、此ノ「コーポレーション」ニ依ツテ初メテ成立スルト私共ハ深く信ズルデアリマス、先程羽田君モ指摘サレマシタ通り、勞働者ハ非常ニ荒シテ居リマス、企業家ハ手控ヘテ居リマス、今日ノ如キ背徳的ナ荒シテ居ルハ、是ハ勞働者ガ惡イノダ、食物ガナイカラ荒シタノダト、唯一言ニ片付ケルコトガ出来ナイノハ、所謂社會ノ環境ガサウサセテ居ルデアツテ、其ノ人ノ罪デハナイ、此ノ事ヲ能ク御記憶願ヒマシテ、今後ノ企業ニハ如何ナル指導方針ヲ持つカト云フコトニ付テ、シツカリトシタ御見解ヲ商工大臣カラ承リタイノデアリマス、殊ニ最近我々ノ非常ニ心配ノ種トナツテ居リマスコトハ石炭デアリマス、今日新聞デ見マスルト、聯合國ノ經濟方面ヲ擔當シテ居ラレル方ガ指摘サレテ居リマスル如ク、食糧ガ欲シト言ヒナガラ石炭ヲ掘ラナイ、食糧ノ代替ニ要スル工業品ヲ造ルニハ石炭ガ要ルノダ、其ノ石炭ガ來年ノ二月ニハ殆ド無クナル豫想デアリニ拘ラズ、石炭ニハ勞務ガ不足ダト云ツテ石炭ガ出テ來ナイ、而モ一方失業對策ヲ五箇年計畫デヤラウトシテ居ル、此ノ日本ノ政府ノヤリ方ニ付テハ、ボウモ分ラヌ節ガアルト云フコトヲ新聞デ見タノデアリマスガ、我モ此ノ點ニ付テ政府ニ御尋ネシタイノデアリマス、石炭ヲ掘ルニ色々ナ華

人ヤ、朝鮮人諸君ノ騒動、其ノ他アリマシタケレドモ、モウ大體落着イタ筈デアアル此ノ石炭ニ勞力ガ足りナクテ、サウシテ石炭ガ出ナケレバ食物ガナイ、食物ヲ貰フコトガ出来ナイ、食物ヲ貰フニ絕對必要ナル石炭ヲナゼ掘ラヌカト云フコトハ「アメリカ」ナラズトモ、國民ガ不思議ニ思フ所デアリマシテ、此ノ石炭ヲ掘ルニ政府ハ無論遊ンデ居ル譯デハアリマセヌ、一生懸命ヤツテ居ルデアリマス、併シ一生懸命ニヤツテモ、役人ガ机上デ「ブラシ」ヲ立テテ一生懸命ヤレバヤル程民心ガ離レルヤウナ傾向ニアルコトハ、終戦後モ依然トシタ狀態デアアルコトニ商工大臣ガ御氣付キニナツテ居ル筈デアアル、此ノ石炭ヲ一日モ早く出スコトニ商工大臣ハ如何ナル成案ト、如何ナル見透シヲ持つテ居ラレマスカ承リタイノデアリマス、更ニ此ノ重要法案ハ本日我々ノ手許ニ提出サレタノデアリマス、アト會期餘ス所僅カ四日間、農地法案モマダ審議中デアリマス、此ノ間ニ此ノ重要法案ヲ審議シテ議會ヲ終ルト云フコトハ、今マデノ議會通念ト致シマシテハ至難ナコトデアアル、政府ハ此ノ餘ス所四日間ノ日ニチヲ以テ、マサカ此ノ議案ヲ議了シ盡スト御考ヘトモ思ヘマセヌガ、之ヲ議了スルニ更ニ會期ヲ延長スル意思アリヤ否ヤト云フコトモ御伺ヒシタイノデアリマス

（議長退席、副議長著席）
運輸大臣オイデニナリマセヌカラ、ドナタカオ傳ヘナサツテ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマスガ、勞働者ノ輸送、通關ノ困難、勿論問題ハ石炭デアリマスルガ、此ノ復舊ノ見透シニ付テ運輸大臣ニ御伺ヒシタイノデアリマス、先程ノ羽田君ノ質問ト重複致シマスルガ、視野ヲ變ヘル意味ニ於テ厚生大臣ニ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス
第一條ノ社會的、政治的向上ト云フコトヲ取ツタコトハ承リマシタ、併シ政治ト云フモノヲ如何ニ御考ヘニナツテ居ルカ知リマセヌガ、單ナル經濟的ノ面ノミニ、此ノ勞働組合法案ノ第一條ガ眼目セラレルト云フコトハ、要スルニ團體功利主義ニ趣ル處ガアルト思フノデアリマス、此ノ點ニ關スル御見解ヲ承リタイノデアリマス
政治ト云フモノハ、私ガ申上ゲルマデモナク、民族ノ未來ヲ創造スル主體的ナ役割ヲナスモノデアリマシテ、此ノ政治的ノ向上ナクシテハ、民主主義ハアリ得ヌト我々ハ信ズルデアリマスルガ、ソレニ對スル御見解ヲ承リタイノデアリマス
更ニ法案ノ七條、三十一條ニ於キマシテハ、地方長官ノ權限ハ極メテ大キイノデアリマス、今マデハ地方長官、其ノ他一般ノ役人ニ對シテ國民ハ命令ヲ受ケテ居タヤウナ形ヲナシテ居タノデアリマスルガ、今後ハサウハ行キマセヌ、然ルニ尙且ツ此ノ七條、三十一條ノ規定ヲ見マスルト、役人ハ賢明ナリト云フ思想ニ胚胎シテ居リマ

ス、役人ガ賢明デアツタカナカツタカハ、此ノ戰爭ヲ通ジテ國民モ我々モ、必ズト體得セラレタノデアリマス、賢明デナカツタノデアリマス、敗戦ノ主ナル面ヲ役人ガ擔當シテ居タノデアリマシテ、決シテ賢明デハナカツタ、殊ニ非常ニ「スロー・モーション」デアアル、此ノ「スロー・モーション」ヲ爲ニ如何ニ多數ノ企業家ガ迷惑シ、勞働者ガ益々ノ苦シミニ陥ツタカト云フコトハ、我々が厭ヤト云フ程感ゼシメラレタノデアリマシテ、此ノ役人ヲ更ニ賢明ナリト云フ假定ノ下ニ、此ノ法案ガ規定セラレテ居ルコトニ對スル御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス
更ニ第十四條ニ安寧秩序ト云フ言葉ヲ使ツテ居リマス、今マデ安寧秩序ヲ害スルト云フト、少シデモ戰爭ニ反對スルヤウナ口調ノアツタモノハ、安寧秩序ヲ害スルト云フテ縛リ上ゲル、併シ今後ハ言論ノ自由、民權ノ尊重ヲ基調ト致シテ居リマスル此ノ日本帝國ノ行政ニ於テ、安寧秩序トハ如何ナル範圍程度ヲ申シマスルノカ、例ヘバ國家否認ノ思想ヲ強調シ、或ハ同情罷業ヲ強調スルガ如キコトハ、果シテ安寧秩序ト云フ文字ニ該當スルヤ否ヤト云フコトニ付キ御伺ヒ致シタイノデアリマス
更ニ此ノ法案ノ第九條ニ於キマシテハ、勞働者ノ代理人ヲ認メテ居リマス、先程羽田君ノ御質問ニモアリマシタガ、此ノ勞働者ノ代理人ト云フモノ

ハ、各國ニ於テ「ボス」ノ跳梁ニ憚ンダ實例ガアリマス、此ノ「ボス」ノ跳梁ヲ如何ニシテ封鎖スルカ、如何ニシテ之ヲ局限スルカト云フコトニ付テ、何等カノ御腹案ガアラバ承リタイノデアリマス
更ニ二十四條ノ勞働協約ノ約款ニ付テ御尋ネスルノデアリマスルガ、勞働協約ノ約款ニ規定シタモノハ罷業ヲナスコトモ出来ナイ、お互ヒノ自由契約ヲ尊重致シテ居ルノデアリマスルガ、産業準備軍ガ甚ニ満チ、失業者ガ氾濫スル時ニ、お互ヒニ相互ニ均等ナル契約ヲ結バレルト云フコトハ、考ヘラレナイノデアリマス、即チ一方ハ其ノ日食ベテ行クカドウカ分ラナイ、先ノ見透シモ付カナイ、使フ方ハ緯々タル餘裕ヲ持つテ居ルト云フ、此ノ兩者ノ間ニ於キマシテ均等ノ契約ガ結バレルト云フコトハ考ヘラレナイノデアリマス、隨テ動トモスレバ資本家側ニ有利ナル契約ガ到ル處結バレルト、吾々ハ考ヘサルヲ得ナイノデアリマスルガ、此ノ協約ガ直チニ以テ後ノ四分ノ一ノ協約ニ參加シナイ所ノ人々ノ、行動ヲ制約スルト云フコトニ對シマスル其ノ是非ニ付テ、厚生大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス
私ノ質問ハ極メテ簡單デアリマスガ、之ヲ以テ終リト致シマス
（國務大臣皆田均君登壇）
○國務大臣（皆田均君） 只今渡邊君ヨリ御質問ノアリマシタ點ニ付キマシ

ナ、總理大臣ノ答辭ナサル部分ヲ除キ、厚生大臣所答ノ諸點ニ付テ御答ヘ致シマス

第一問ハ先程羽田君ノ御質問ニアリマシタ勞働組合法案第一條ノ中ニ、單ニ勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖ルト云フ文字デアツテ、政治的地位ノ向上ト云フ字ガナイ、併シナガラ勞働組合法ノ主要ナル目的ヲ單ニ經濟的地位ノ改善維持ト云フコトニ限ルコトハ、却テ良クナイ結果ヲ與ヘルノデハナイカ、總テノ問題ハ政治的地位ノ向上ニ關聯ヲ持ツノデアルカラ、之ヲ省イタコトハ果シテ適當カドウカト云フ御尋ネデアリマス、此ノ點ハ先程モ羽田君ニ御答ヘ致シマシタ通り、經濟的地位ノ向上ヲ眼目トスルトハ言ヒナガラ

〔副議長退席、議長著席〕

此ノ地位ノ向上ヲ圖ル目的ヲ以テスル或ル程度ノ政治運動ハ、十分ニ認メラレテ居ル譯デアリマス、又總テノ勞働者ノ地位ノ向上ガ、政治的地位ノ向上ト密接ナル關聯ヲ持ツト云フコトモ御説ノ通りデアリマスガ、此ノ案ノ條文ヲ以テシテモ渡邊君ノ御趣意ニハ十分副ビ得ルト信ジテ居ルノデアリマシテ、決シテ從屬の程度ノ政治運動ヲ、此ノ法案ニ依ツテ禁止スルト云フ考ヘハ持ツテ居ラスノデアリマス

第二ノ御質問ハ地方長官、即チ法文ノ中ニ地方長官ノ權限ヲ認メテアル、法文ノ趣意カラ見ルト、地方長官ハ總テ利口ナ者ダト云フ想定ノ下ニ法文ガ

出來テ居ルヤウニ思フガ、ソレデ果シテ宜イノカト云フ御質問デアリマス、此ノ法文ノ趣意ハ地方長官ガ特ニ賢明デアルトカ、或ハ特ニ無能デアルトカ云フ如キ想定ノ下ニ作ツタモノデハアリマセス、地方長官ガ當然其ノ權限トシテ與ヘラレテ居ル職務ノ範圍内ニ於テ、勞働組合法ニ依ツテ附與セラレテ居ル職權ヲ行フト云フ程度ノコトデアリマシテ、殊ニ各箇條デ御覽ノ通り、

重要ナ問題ノ決定ニ付テハ、常ニ勞働委員會ノ決議ヲ經テ知事ガ其ノ決裁ヲ與ヘルト云フ趣意ニナツテ居ルノデアリマシテ、決シテ地方長官ガ獨斷專行ヲ以テ、勞働組合ノ内容ニ干渉スル趣意ニ出來テ居ル譯デハナイノデアリマ

第三ノ御質問ハ案文ノ第十五條ニ安

寧秩序ト云フ文字ガアル、安寧秩序ヲ紊リタル時ハ勞働委員會ノ申立ニ依ツテ、勞働組合ノ解散ヲ命ズルト書イテナル、安寧秩序ト云フ言葉ガ極メテ曖昧模糊タル文字デアツテ、從來廣々其ノ名ノ下ニ不當ナ壓迫ガ加ヘラレタ事實ガアルガ、是デ宜イノカト云フ御質問デアリマス、第十五條ニハ勞働組合ガ、屢々法令ニ違反シテ安寧秩序ヲ紊リタルトキト書イテアルノデアリマシテ、法令ニ違反シテ、而モソレガ安寧秩序ヲ紊シタ場合ノコトヲ規定致シテ居ルノデアリマス、而モ其ノ安寧秩序ト申シマスノハ、普通公共ノ安全、國家社會ノ正常ナル秩序ヲ紊スト云フ意

味デアリマシテ、廣々人心ヲ惑亂シ、經濟、社會、國家ノ秩序ヲ混亂ニ陷レル如キ場合ヲ指スノデアリマス、ソレ等ノ安寧秩序ヲ紊ツタ行爲ガ、法令ニ違反シテ居ルコト云フコトヲ條件ト致シテ居ルノデアリマス、サウシテ裁判所ガ其ノ判斷ヲ致スノデアリマスカラ、

本案ノ趣意ヲ以テスレバ、二重、三重ニ勞働組合ノ權利、利益ヲ保護シ得ルモノト考ヘテ居リマス
其ノ次ニ勞働組合ニハ、勞働者以外ノ者モ組合ノ委任ヲ受ケ團體交渉等ヲスルコトヲ認メル趣意ニナツテ居ルガ、ソレデハ「ボス」ノ跳梁ヲ見ルノデハナイカト云フ渡邊君ノ御意見デアリマスガ、從來ノ例ニ依リマス、成程「ボス」ガ介入シタ如キ事例モアリマシタ、併シナガラ又一方ニ於テハ組合員ノ信賴スル、自分等ノ代理人トシテ、十分權限ヲ任セ得ルガ如キ人間モ相當ニ出テ居ルノデアリマシテ、團體交渉等ノ場合ニ是等ノ人間ヲ其ノ代理人ニ委任スルト云フコトハ、寧ろ當然認メルベキデアリ、一概ニ排斥スベシトモ言ヘナイノデアリマス、惡質ナル「ボス」ガ跳梁スルガ如キコトハ、寧ろ組合側カラ自主的ニ排斥セラルベキモノデアリマス、又使用者側デ是ガ不良ノ「ボス」デアルト認メラレタ場合ニハ、其ノ方カラ勞働委員會ニ申出ルト云フガ途ガ開カレテ居ルノデアリマスカラ、必ズシモ勞働者以外ノ者ニ組合ノ代議ヲ許サナイト云フ規定ヲ設ケル必要ハ

ナイ、斯様ニ考ヘル次第デアリマス
其ノ次ノ御質問ハ法案第二十五條ニ勞働協約ニ關スル紛争アル場合、調停又ハ仲裁ニ付スル定メアルトキハ調停又ハ仲裁成ラザル場合ノ外同盟罷業、作業所閉鎖其ノ他ノ爭議行爲ヲ爲スコトヲ得ズ、一言デ申シマス、勞働協約ノ仲裁約款ノ拘束力デス、ソレハ勞働協約ハ勞働者、資本家トノ關係ヲ實力ノ闘争ニ依ラズシテ、圓滿ニ之ヲ平和的ニ整調スベキコトヲ本來ノ使命ト致シテ居リマス、ソコデ誠意アル相互ノ約束、之ヲ守リ、仲裁約款ニ付テモ其ノ拘束力ヲ持タセルコトガ當然ノ趣意ト考ヘルノデゴザイマシテ、唯產業豫備軍ガ非常ニ多イカラ勞働者ト事業主トガ、決シテ對等ノ立場ニ於テ契約ヲ結ブコトガ出來ナイノデハナイカト云フ風ナ御懸念モアリマスガ、サウ云フ懸念ガアレバコソ、此ノ勞働組合法ニ依ツテ團體權ヲ保障シ、團體交渉權ノ保護助成ニ努メテ居ル次第デアリマシテ、御懸念ノ點、御心配ノ點ハ十分ニ保護セラレルコトト信ジテ居リマス

〔國務大臣男爵幣原喜重郎君登壇〕
○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 只今渡邊君ヨリ私ノ國家觀ニ付テ御問ヒガアツタノデアリマス、私ハ學說トシテノ國家觀ト云フヤウナモノニ付キマシテハ、御話ヲ申上ゲル程ノ資格ハナイノデアリマス、併シ今後ノ政治ハ飽クマデモ一君萬民ノ理想ニ則リ、國民ノ總意ヲ基調トスルモノデナケレバナリ

マセヌ、即チ國民ノ權利ヲ尊重シ、國民ノ權利ヲ擁護シ、國民ノ意思ニ即應シタモノデナケレバナラヌト考ヘマス、勿論自由ト申シマシテモ、決シテ放縱無節制ノ意味スルモノデハアリマセヌ、自由ノ觀念ハ同時ニ國家社會ヘ奉仕乃至責務ノ觀念ニ依ツテ裏付けラレルモノデナケレバナリマセヌ、言葉ヲ換ヘテ言ヒマスレバ、社會全體ノ考ヘガ強ク支配シナケレバナラヌト考ヘマス、斯クシテ個人ト國家トガ一體化スルコトヲ以テ新日本ノ國家思想デアルト申サナケレバナリマセヌ

次ニ會期延長ノ考ヘハナイカト云フ御問ヒガアリマシタ、私ハ何トカシテ皆樣ノ御理解、御協力ニ依リマシテ速カニ本案ノ成立スルヤウニ熱望致シテ居ルノデアリマスガ、會期延長ノ問題ニ付キマシテハ、今後ノ事態ニ顧ミテ適當ナル措置ヲ執リタイト考ヘテ居リマス
〔國務大臣田中武雄君登壇〕
○國務大臣(田中武雄君) 只今豫算委員會ノ方ニ行ツテ居リマシテ、渡邊君ノ御質問ノ趣旨ヲ直接承リマセヌノデアリマシタガ、聴キマスルト列車ノ回復ノ時期ニ付テガ一點、ソレカラ工員諸君ノ通勤ニ付テノ御質問ガ一點、此ノ二點ニ付テ御聽キダト承リマシタノデ、其ノ二點ニ對シテ御答辭申上ゲマス
御承知ノ通りノ洵ニ窮迫セル石炭ノ事情デゴザイマシテ、各省トモ全力ヲ

舉ゲテ此ノ解決ニ協力ヲ致シテ居リマ
スルガ、列車ノ回復ノ時期ニ付キマシ
テハ、バカント元ノ通りスト直スト
云フヤリ方ヨリハ、石炭ノ配給ガ付イ
テ參リマシム程度ニ依リマシテド
ント殖ヤシテ、段々ニ殖ヤシテ行クト
云フ風ナリ方デゴザイマシテ、アノ
二十日カラノ増設ノ状態ニ何時ナルカ
ト云フコトニ對シテハ、一寸ハツキリ
御答ヘヲ申上デ兼ネルノデアリマス、
併シ段々配給ガ殖エルニ從ツテ、線ガ
段々殖エテ行クト云フコトニ付テノ程
度ノコトシカ只今申上デラレマセヌ
ソレカラ工員諸君ノ通勤ニ付テハ、
只今ノヤウナ窮屈ナ事情ノ下ニ運轉ヲ
致シテ居リマスケレドモ、工員諸君ノ
通勤ニ付テハ差支ヘノナイヤウナ手配
ヲ致シテ居リマス、右御答辯ヲ申上デ
マス

〔國務大臣小笠原三九郎君登壇〕

○國務大臣(小笠原三九郎君) 渡邊君

ガ御尋ネニナリマシタ一點ハ、勞働者ヲ
搾取シテ企業ガ、利潤追求ノ道具デア
ツテハナラナイト云フ風ナ意味ニ今承
ツタノデアリマスガ、ソレナラバ實ハ
私共モ、企業ハ決シテ露骨ナル利潤追
求ノ道具デモナク、又勞資ガ相爭フ土
俵デモナイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデア
リマシテ、殊ニ今後ノ日本經濟ハ長期
ニ亙ツテ困難ナ不況ノ途ヲ歩マナケレ
バナラヌノデアリマス、健全ナ發展ノ
ミガ、日本ノ存在ヲ維持シテ參リマス
ル唯一ノ手段デアアルコトヲ考ヘマスレ

バ、勞資ガ對立ヲシテ利潤ノ分配ヲ爭
フベキモノデハナク、一致協力シテ互
ヒニ國民トシテノ生活ノ職場タル企業
ニ於テ、是ガ發展ニ貢獻スベキモノデ
アルト考ヘルノデアリマス、勿論從來
ノ產報運動等ニ於テ、勞働者ヲ唯壓制
スル弊ノアツタコトハ、是ハ認メナケ
レバナリマセヌガ、今後モ同ジヤウナ
意味デ、勞資問題ヲ不明瞭ナル儘ニ放
置シヨウト云フモノデハゴザイマセ
ヌ、互ヒニ其ノ立場ニ於テ主張スベキ
モノハ主張セシメル、此ノ對立ハ飽ク
マデ對立トシテ、相互ノ批判ヲ自由ナ
ラシムル如クスルコトガ必要デアリマ
スルガ、其ノ窮極ノ目標ガ相互ノ尊重
ト理解ト、サウシテ協力トニアルコト
ヲ明確ニ闡明スルコトハ、勞働運動復
活ノ現在ニ於テ、特ニ適切且ツ必要ダ
ト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ實現
方法ト致シマシテハ、企業者ト勞働者
トノ合意ニ依ツテ、例ヘバ企業ノ株
式、其ノ他ノ所有ヲ分割スルコトモ可
能デアリマセウシ、企業經營ノ全般ニ
勞働者ヲ參加サセルコトモ適當デアリ
マセウ、ダガ政府ト致シマシテ指導ス
ベキ限界ハソコニ自ラアルト思フノデ
アリマシテ、企業經營事項ニシテ勞働
者トノ關係ガ密接ナモノニ付テハ、其
ノ意見ヲ反映セシムルガ如キ方法ヲ講
ジサセルコト、或ハ産業ノ自治統制ノ
運用ニ勞働代表ヲ參加セシムルコトト
スル位ガ、政府トシテ指導スベキ限界デ
アラウト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

其ノ次ニ石炭ヲ一日モ速ク出スコト
ニ付テ、ドウ云フ措置ヲ執ツテ居ルカト
云フコトデゴザイマス、此ノ措置ニ付
キマシテハ既ニ度々申上デマシタガ、
之ヲ一口ニ申セバ、食糧其ノ他必需品
資ノ増配、資金ノ引上等ニ依ル所謂勞
働條件ノ改善ニ依リ勞務ノ充足ヲ圖
リ、他方復舊資金、企業資金等、サウ
云フ所要資金ヲ賄ツテアルコトニシ、
又戰時中ニ不當ニ増加シタ資本ノ銷
却、切下ゲ等ヲ行ハシメルヤウナ金融
並ニ助成措置等ヲ講ズルコトニ依ツテ
此ノ増産ヲ圖ツテ參ル外、新聞等デ御
承知ノヤウニ石炭廳ヲ作りマシテ、而
モ此ノ石炭廳ガ中央ト地方ト直結シマ
シテ、地方ノ増産本部ト相俟ツテ、必
ズ成績ヲ擧ゲ得ルモノト期待致シテ居
ル次第デゴザイマス、現ニ十一月中旬
ニ比ベマス、十一月下旬ハ相當増加
シテ居ルノデゴザイマシテ、數字のニ
申セバ、十一月中旬ハ全國デ十六萬二
千八百「トン」デアリマスガ、十一月下旬
ハ十九萬二千八百「トン」ニ増加シ、十二
月ニ於テマシテハ、私共ハ六十六萬
五千「トン」ヲ豫想シ、一月ハ九十
萬九「トン」二月ハ百九萬五千「トン」
ヲ豫想致シテ居ル次第デゴザイ
マス

○議長(島田俊雄君)本多市郎君

〔本多市郎君登壇〕

○本多市郎君 我先ヅ本法案ノ對象
タル新日本ノ企業體制ニ付テ政府ノ御
所見ヲ御伺ヒ致シタイと思フノデアリマ
ス、即チ今後ノ日本ノ産業體制ハ民營
ヲ主トスルカ、官營ヲ主トスルカト云
フ問題デアリマス、此ノコトハ本法ノ
性格ニ重大ナ影響ガアルカラデアリマ
ス、社會主義理念ヨリ致シマスレバ、
計畫經濟ノ下、官公營主義ヲ執ルコト
ニナルト思フノデアリマスガ、吾人ノ
見解ヲ以テ致シマスレバ、官公營ハ損
益ガ國家公共團體ニ歸屬スル結果、所
謂役人仕事ニ墮シマシテ、事業ニ對ス
ル責任觀念ト熱意ヲ缺キ、經營ハ放漫
ニ流レ、競爭ニ依リ進歩ガナイ爲ニ發
展性ニ乏シイノデアリマシテ、此ノコ
トハ既ニ國民ノ熟知スル所デアラウト
思フノデアリマス、故ニ新日本ノ經濟
ヲ興隆セシメ、世界ノ進運ニ後レザラ
シムル爲ニハ、必要ナル統制ハ例外的
ニ行ヒ、自由經濟ヲ原則トシ、個人民
營ヲ主トシテ競爭ニ依リ發展ヲ期スル
コトガ最も適當デアルト思フノデアリ
マス、而シテ民營ヲ適當トセザル事業
ニ付テノ例外的ニ官公營トスルノデ
アリマス、本法モ亦資本の生産ヲ前提
トスル立案ト思フノデアリマスガ、其
ノ産業體制ニ付キマシタ政府ノ御所信
ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマス、又計
畫經濟ハ結果ニ於テ統制經濟ノ別名ニ
過ギナイノデアリマシテ、是レ亦國民ノ
深刻ニ體驗セル所デアリマス、斯クノ
如キ計畫統制經濟ノ下ニ於テハ、何人ガ
其ノ運營ニ當ツテモ、國民ノ創意工夫ト
云フモノヲ十分ニ活カシ得ナイノミナ
ラズ、社會經濟ノ複雑ナル情勢ニ對應

スルコトハ困難デアリマシテ、其ノ結
果ハ國民個人ノ利益ト國家ノ利益トガ
逆行スル多クノ場面ヲ生ズルノデアツ
テ、茲ニ人情ノ自然ニ反スル破綻ノ絲
口ガアルト思フノデアリマス、新日
本ノ政治ハ從來ノ如キ眞面目、正
當ナル者ガ馬鹿ヲ見ルヤウナモノ
ノデアアツテハナラヌノデアリマス、
今後ノ政策ハ個人ノ利益ト、國家ノ利
益トガ並行シテ増進サレル所ノ政策デ
ナケレバ、眞ニ活キタ政策ト云フコト
ハ出來ナイト思フノデアリマシテ、斯
クノ如キ政策ハ自由經濟ヲ原則トシテ
初メテ成立ツノデアリマス、而シテ自
由經濟ニ伴フ弊害ニ付キマシテハ、盛
ンニ社會政策ヲ斷行シテ、之ヲ是正ス
ベキデアルト思フノデアリマス

次ニ「ストライキ」合法化ノ理念ニ付
テ、政府ノ御意見ヲ御伺ヒ致シタイト
思フノデアリマス、團結セザル個々ノ
勞働者ハ洵ニ無力デアリマシテ、如何
ニ苛酷ナル勞働條件ニモ屈從セネバナ
ラヌ場合ガアルノデアリマス、故ニ勞
働條件改善ノ爲ニハ、團結ノ力ニ依ル
勞働協約締結權ヲ認ムル外ハナイト思
フノデアリマスガ、我が國ニ於テキマシ
テハ未ダニ「ストライキ」ハ不道德ナ
リ、罪惡ナリト云フヤウナ思想ガ多イ
ト思フノデアリマス、是ハ封建時代ノ主
從關係ノ思想カラ來ルモノト、契約自
由ノ原則ヨリ見テ、雇傭契約後ニ甚ダ
シキ情勢ノ變化ナキ限り、其ノ變更ヲ
強要スルコトガ非合法デアルト云フ觀

念カラ來ルモノデハナイカト思フノデアリマス、斯クノ如キ思想ガアル爲ニ我ガ國ニ於ケル労働條件ノ改善ハ甚ダシク阻礙セラレテ居ルと思フノデアリマシテ、此ノ際本法立案ノ根本理念タル「ストライキ」正當化、合法化ノ理念ニ付テ政府ハ其ノ見解ヲ國民ノ前ニ明瞭ニセラル、コトガ、本法ノ目的ヲ達スル上ニ最も適當デアルト思フノデアリマス。

次ニ本法ノ對象タルベキ中小商工業ノ復活ニ付テ、政府ノ對策ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、本法ハ大工場ヲ主タル對象トシテ立案セシメテ居ルヤウデアリマスルガ、今後暫クノ間ハ大工場復興ノ見込シハ困難デアツテ、我ガ國ノ都市産業ハ、主トシテ、中小商工業ガ中心トナラナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ今日中小商工業ノ實情ハドウデアルカ、企業整備ノ家業ヲ導ハレ、職災デ店舗工場ハ燒カレ、破壊ノ慘狀サレテ居ルノデアリマシテ、労働者ノ團結權ヨリモ其ノ對象タル中小商工業ノ復興ガ、先決問題デアルト思ハレノデアアルガ、政府ニ如何ナル對策ガアルノデアリマスカ、之ヲ御伺ヒ致シテ置キマス。

次ニ階級闘争ノ誘發ト、生産能率ノ低下ヲ防止スル爲ニ、如何ナル考慮ガ拂ハレテ居ルカト云フ點デアリマス、本法ニ依ツテ労働者ガ種類別ニ、地域別ニ組合ヲ作ツタナラバ、都市住民ノ大部分ハ使用者ト僱人ト二分對立スルコ

トニナルノデアリマス、其ノ結果ハ階級闘争ヲ誘發スル虞ナシトシナイノデアリマス、又廣、争議ノ結果ハ労働者ニ穩健、著實、勤勉ノ美風ヲ失ハシメ、能率低下ノ虞ナシトシナイ、特ニ我ガ國ノ如キ機械ノ發達不十分ナ狀態ニ於テハ、各人ノ働キヲ機械ノ明確ニ知ルコトハ困難デアツテ、労働者ノ誠實ト云フモノガナケレバ、非常ナル生産ノ低下ヲ生ズルノデアリマス、若シモ斯クノ如キ結果ニ陥リマシタナラバ、産業ノ興隆ドロカ産業ノ破滅デアリマス、更ニ我ガ國ノ中小商工業者、其ノ他家庭ノ雇傭關係ニ於キマシテハ、單ナル労働條件ノミノ繋リデハナイ、人情ニ基ク敬愛ノ繋リガ多イノデアアルガ、本法ニ依ツテ此ノ點ニ付テ必要ナル對立觀念ヲ生ズルノ虞ナキヤ否ヤ、是等ノ點ニ付キマシテハ所謂

日本の民主主義ノ立場カラ、特別ノ考慮ガ本法ノ上ニ拂ハレテ居ナクテハナラヌト思フノデアリマスガ、如何ナル考慮ガ拂ハレテ居ルカト云フコトヲ、御伺ヒ致シテ置キタイト思フノデアリマス。

次ハ企業體制ノ編成ニ關スル質問デアリマスルガ、勞資協調ノ爲ニハ、勞資交流ノ途ヲ開クコトガ最も適當デアナカラウカト思フノデアリマス、即チ従業員ニ株式ヲ公開シ、一定限度ノ株式ハ従業員ガ株主タル途ヲ講ジ、勞資交流セシムルコトガ、堅實ナル産業發達ノ爲ニ最も適當デハナイカト思フ

ノデアリマス、之ニ對スル政府ノ御所信ヲ御伺ヒスル次第デアリマス、本法ニ於キマシテハ勞資ヲ截然區分スル建前ヲ執ツテ居ルノデアリマスガ、之ヲ恰モ農地法ニ於ケル自作農創設ノ精神ト同一ノ精神ヲ以テスルナラバ、眞ニ其ノ事業ヲ愛シ、工場ヲ愛シ、職場ヲ愛シ、熱意ヲ傾注セシムル爲ニハ、其ノ事業ノ最終的損益ガ従業員自身ニモ歸屬スルヤウニスルコトガ、最も適當ト思フノデアリマス、又之ニ依ツテ勞資雙方ノ立場ガ能ク理解セラレマシテ、圓滿協調シテ企業ノ發展ヲ期スルコトガ出來ルト思フノデアリマス、是ニハ低利資金融通等、政府ノ助成手段ハ勿論伴ハネバナラヌノデアリマスガ、斯クノ如キ方策ニ對スル政府ノ所信ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマス。

次ニ交通事業、其ノ他公營事業ニ付テ、争議防止ノ爲ニ當然強制調停ノ手段ヲ講ズベキデアルト思フノデアリマスルガ、更ニ進んで最後の強制解決ノ途ヲ講ズベキデハナイカト思フノデアリマス、此ノ點ニ對スル政府ノ見解ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマス、本法案ハ争議ヲ合法化スルト共ニ、争議ノ防止ノ目的トスルモノデアルト解スルノデアリマス、調停仲裁等ヲ以テシテモ、最終的解決ノ法的手段ガ伴ハナイ點ハ、民主主義政治ノ弱點ノ代表的ナ缺陷ヲ有スルモノト思フノデアリマシテ、洵ニ遺憾トスル所デアリマス、即チ争議ニハ損害賠償モナケレバ、解雇

サレル心配モナイ、争議ハ時々ヤラネバ損ダト云フヤウナ觀念ニ陥リマシタナラバ、産業ノ破滅デアリ、國家ノ大ナル損失デアルト思フノデアリマス、殊ニ交通事業ナドノ争議ハ大衆ニモ非常ナル迷惑ヲ及ボシ、他ノ産業ニモ及ボス影響モ大ナルモノガアルノデアリマス、之ニ對シ職權調停ノ途ハアツテモ、最後の解決ノ途ハ設ケラレテ居ナイノデアリマス、之ヲ例ヘバ勞働委員會ノ最後の決定ニ對シ不服セヌ場合ニハ、使用者ニ對シテハ委員會ノ事業管理、従業員ニ對シテハ使用者ノ解雇權ヲ認メル等ノ方法ニ依リマシテ、強制調停ニ服セシムル手段ヲ講ズベキモノデハナイカト思フノデアリマス、又一般ノ事業ニ付テモ少クとも總テノ問題ニ付キ争議前調停申立ノ義務ヲ設ケベキデアルト思フノデアリマス、是等ノ點ニ對スル政府ノ御見解ヲ御伺ヒスル次第デアリマス。

次ニ勞働協約ノ骨子タル勞働賃銀ト勞働時間ニ付テ新事態ニ對スル政府ノ御意見ヲ御伺ヒ致シタイト思フノデアリマス、現下ノ情勢ハ労働者ヲ含ム生産者ノ立場ニアルモノ程、有利ナモノハナイト思フノデアリマス、一般消費者ハ生活必需品ノ暴騰ニ、既ニ追ヒ詰メラレテ居ルノデアリマス、斯クノ如キ事態ニ於キマシテハ、勞働協約ノ改訂ト云フモノハ總テ消費者ノ負擔ニ於テ如何トモスルコトガ出來ルノデアリマス、又平時ニ於テモ特ニ獨占的事

業ノ場合ニ於テハ、勞資ノ狎合ヒニ依レバ、如何ナル協約モ消費者ノ負擔ニ於テナシ得ラレルノデアリマスルガ、斯クノ如キ場合ニ、如何ニシテ一般消費者ノ立場ヲ擁護スルノデアアルカ、此ノ爲ニハ勞働協約ノ基準トシテ、最高賃銀ノ制度ガ必要デハナイカト思フノデアリマス、又不景氣ト失業ガ深刻ニナレバナル程、労働者ハ生キンガ爲ニハ如何ナル苛酷ナル條件デモ働カナケレバナラヌ實情ニ立至ルノデアツテ、多數失業者ガアルノニ、一部ノ労働者ガ長時間酷使セラレルヤウナ不合理ニ陥ラナイトモ限ラナイ、サウ云フコトガナイヤウニスル爲ニハ、労働者ノ生活ノ地位ヲ保護スル爲ニ、最低賃銀ト労働時間ノ制限ガヨリ以上ニ必要デアルト思フノデアリマス、更ニ

勞働時間ハ全部ノ労働者ニ就テ勞働會ヲ與ヘ、短時間均等ノ労働ニ依ツテ生活ノ保障ヲ得セシムル失業對策ノ重點ト云フ觀點カラモ、考慮セラルベキデアルト思フノデアリマスガ、是等ノ點ニ對シテ政府ハ如何ナル御考ヘヲ持ツテ居ラレルデノアルカ御尋ネスル次第デアリマス。

次ニ消費者ノ立場ニアル労働者ノ待遇改善ニ付テ、前質問者ヨリモ御話ガ出タノデアリマスルガ、重ネテ御伺ヒヲ致シテ置キタイト思フノデアリマス、今日學校教職員、下級官吏、警察官等ガ如何ナル狀況ニ陥ツテ居ルカ、其ノ苦境ハ今更多言ヲ要シナイノ

一六一

デアリマス、警察官ニ限リマシテハ、組合ヘノ加入ヲ禁止セラレタヤウデアリマスルガ、其ノ他ノ官公吏ニ對シテハ、ヤハリ勞働組合ニ入ツテ、勞働組合ノ力ヲ待遇改善ヲスルト云フ建前ヲ執ツテ居ラレルヤウデアリマス、シテ見ルト是等ノ官公吏ニ對シテハ「ストライキ」ニ依リ改善ヲ期待シテ居ルノデアルカ、何レニシテモ思ヒ切ツタ待遇改善ヲナスコトハ、一刻モ猶豫出來ナイ問題デアルト思フノデアリマス、之ニ對スル政府ノ明確ナル所信ヲオ伺ヒ致シテ置キタイと思ヒマス

次ニ失業保險ト勞働行政、是ハ不可分ナル國家ノ責任デアルト思フノデアリマスルガ、此ノ點ニ關スル政府ノ見解ヲ御伺ヒ致シマス、現下多數國民ノ失業ト云フモノハ、殆ド總テガ國家ノ責任デアツテ、本人ノ怠慢、怠惰ニ依ルモノデハナイノデアリマス、之ニ衣食住ノ給與ヲナスカ、職業ヲ與ヘルカ、舉ゲテ國家ノ絕對責任デアルト思フノデアリマシテ、失業保險ハ實ニ此ノ觀點カラ考ヘラレネバナラヌノデアリマス、外國ノ例ハイザ知ラズ、新日本ノ再建ニ當ツテ、勞働力ヲ極度ニ必要トスル今日ニ於テ、勞働行政宜シキヲ得レバ、失業者ナカラシムルコトモ出來ルノデアツテ、失業手當ニ依ル財政破綻ナドト云フコトハ、勞働行政ニ自信ナキコトヲ自ラ告白スルニ過ギナイと思フノデアリマス、失業者ハ一千萬人ト言ハレルノニ、最前モ御話ガ

アリマシタ通り、炭礦勞働者不足デ悲鳴ヲ擧ゲテ居ルノハドウシタ譯カ、困難ナル炭礦勞働ニ對應スル勞働條件ガ充サレテ居ナイカラデハナイカト思フノデアリマス、尤モ如何ニ多クノ人ガ遊シテ暮シテ居ツテモ、働カ意思ノナシ者ハ失業者デハナイノデアリマスガ、今日ノ如キ勞働行政ノ緩慢サデハ本問題ノ解決ハ覺束ナイヤウナ氣ガスルノデアリマス、此ノ失業對策ニ自信ガナケレバ失業保險ト云フモノハ成立タナイノデアリマス、故ニ失業保險ハ勞働行政ト不可分ノ關係ニ於テ、政府ノ責任觀念ト誠意トガ解決スルノデアリマス、此ノ點ニ付テ如何ナル確信ヲ持ツテ居ラレルノデアルカ、政府ノ御答辯ヲ望ム次第デアリマス

最後ニ私ハ勤勞所得ニ對スル源泉課稅ヲ撤廢シテ、勤勞者ノ負擔ヲ輕減スルノ意思ハナイカドウカト云フコトヲ御尋ネ致シマス、近來政府ガ勤勞所得ニ對スル源泉課稅ニ、稅源ノ重點ヲ置クコトニナリマシタ結果、勤勞者ノ負擔ハ著シク加重セラレタノデアリマスルガ、大所得者ノ課稅ニ付テハ著シク徹底ヲ缺クヤウニナツテ參ツタノデアリマス、而モ戰爭中勤勞者ニ對シテハ收入ノ面ニ於テモ、支出ノ面ニ於テモ、共ニ共產主義的規制ヲ加ヘテ來タノデアリマスルガ、資本家ニハ、此ノ收入ノ面ニ於テ極端ナル資本主義的利得ヲ許容シテ來タノデアリマス、之ニ對スル課稅ノ不

徹底ガ手傳ツテ非常ナル開キヲ生ジ、戰爭成金ヲ作ツタノデアリマス、若シ勤勞者ノ如ク、稅法通り正當ニ納稅シテ居タナラバ、何百萬圓、何千萬圓ト云フ財產ハ出來ル筈ガナイノデアリマス、ドンナ計算ヲシテモ斯ノ如キ戰爭成金ハ出來ル譯ガナイノデアリマスガ、實ニ戰爭成金ハ脫稅ノ結果ト見ルコトガ出來ルノデアリマス、是等ニ對シテハ、改メテ財產ヲ調査シ、戰時利得ヲ吐キ出サセルコトガ、戰爭ノ不公平ヲ是正スル上カラモ勿論必要デアリマスガ、今述ベマシタ脫稅ノ點カラモ當然ノコトト思フノデアリマス、然ルニ勤勞所得ニ對スル源泉課稅ノ如キハ、勤勞階級ヲ對象トシテ、稅中最大ノ稅源デアリマシテ、惡稅ノ大ナルモノト言ハナケレバナリマセヌ、故ニ今後ノ直接稅ハ應能課稅主義ニ則リマシテ、綜合所得ニ對スル累進率課稅ヲ中心トシ、本稅ノ如キ不合理ナル惡稅ハ之ヲ撤廢シテ、下級勤勞者ノ負擔ヲ輕減スベキデアルト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テノ政府ノ御意見ヲ御伺ヒ致シマス、以上私ノ質問ハ十項目ニ互ツテ居リマスガ、其ノ各項目 對シテ政府ノ御答辯ヲ求ムル次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣小笠原三九郎君登壇〕

○國務大臣(小笠原三九郎君) 本多君ニ御答(申上)ゲマス、本多君ノ御意見トシテ、今日ノ場合、民營ヲ主トスベシ、斯ウ云フ御意見ニ對シマシテハ、私共モ全ク同感デアリマス、隨ヒマシ

テ多數ノ企業ガソレノ自主的ニ活動シ得ルガ如ク措置スルコトガ必要デアリマシテ、是ガ爲ニハ獨占的ナ市場支配ヲ抑ヘルコト、企業自體ノ財閥的結合ノ發生ヲ制限スルコト、産業、企業ガ金融資本ニ不當ニ支配サレナイヤウナ制限ヲスルコト、斯ウ云フコトガ必要デアツテ、是等ノ措置ヲ執ルコトニ依ツテ、民營ヲ主トシテ民主主義的ニ運營シ得ルト考ヘテ居ル次第デアリマス

尙ホ第二ノ御尋ネニナリマシタ中小工業ニ關スル勞資關係デアリマスガ、本法案ニハ特ニ觸レテ居リマセヌガ、御意見ノ如ク中小工業ノ現狀及ビ將來等ニ鑑ミマシテ、從來ノ子弟關係、家庭ノ零團氣、斯ウ云フヤウナコトハ今後トモ産業上ノ美風トシテ存續セシメタイ、斯様ナ方針デアリマス

次ニ産業組織ノ根本方針ニ付テ御尋ネガアリマシタガ、先刻渡邊君ニ御答ヘ致シタノデ、大體御諒解ガ願ヘタコトト思フノデアリマス、即チ日本經濟ノ今後ノ任務ニ鑑ミマシテ、勞資對立シテ利潤ノ分配ヲ爭フベキデハナイ、一致協力シテ互ヒニ國民トシテ、生活ノ戰場ニ於テ是ガ發展ニ貢獻スベキモノデアアル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ從業者ニ或ハ企業ノ株式、其ノ他ノ所有ヲ分割スルコト、又企業經營ニ從業者ヲ參加サセルコト、斯ウ云フヤウナ御意見ニ付キマシテハ洵ニ望マ

シイ所デアツテ、是ガ企業者ト從業者トノ合意ニ依ツテナサレルコトガ、最モ願ハシイ所デアルト考ヘテ居ル次第デアリマス

〔國務大臣片岡均君登壇〕

○國務大臣(片岡均君) 本多君ノ御尋ネニナリマシタ第一點ハ、團結權理念ノ合法的根據ガ何處ニアルカト云フ質問デアリマス、「ストライキ」ヲスルガ如キ行動ヲ以テ、合法的ナリト云フ根據ガ何處ニアルカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、今日マデ勞働者ノ團結權ハ法律上所謂放任行爲トシテ自由ヲ認メラレル程度デアツタト云フコトデアリマシタガ、本法ニ依ツテ明カニ其ノ第一章ニ團結權ヲ法的ニ認メタ譯デアリマス、其ノ根據ハ使用者側ハ、既ニ「ロック・アウト」其ノ他ノ方法ニ依ツテ勞働者ニ對シ極メテ強力ナル立場ニアル、茲ニ勞働者ガ平等ノ立場ニ於テ使用者ト契約ヲ結ブニハ、ドウシテモ團結ノ力ヲ以テシナケレバ不可能デアリマス、常ニ個々ノ勞働者ハ使用者ニ對シテ弱者ノ地位ニ立ツテ居ル、之ニ團結權、罷業權ヲ與ヘルト云フコトハ社會政策ノ上カラ見マシテモ、又民主主義政治ノ理念カラ見マシテモ適當デアアル、斯様ニ考ヘタ次第デアリマス

次ニ勞働組合法ヲ制定スルコトハ、爭議發覺ノ虞ハナイカト云フ御質問デアリマス、勞働組合法ノアルトナイトニ拘ラズ、爭議ガ起ルト云フコトハ現實ノ事實デアリマス、斯クノ如キ爭議ヲ圓滿

ニ調整シ、或ハ之ヲ未然ニ防グト云フコトガ、勞働法依ツテ初メテ法の二行ハレ得ル、此ノ勞働組合法ニ於テハ勞働委員會ナルモノヲ設ケテ、爭議ノ虞アル場合、爭議ノ起ツタ場合公平ナル委員會ノ決定ニ依ツテ之ヲ調整シ、解決スルコトニ努力スル途ガ開カレタノデアリマスカラ、寧ロ將來ノ勞働爭議ヲ解決スル上ニ於テ、斯様ナ法律ヲ制定スル方ガ望マシイコトデアアル、斯様ニ考ヘタ次第デアリマシテ、此ノ法律ガ出來タカラ勞働爭議ヲ誘發スル原因トナルトハ考ヘテ居リマセヌ

次ニ公共事業ニ付テハ、最後の二強制調整ノ途ヲ開イテハドウカト云フ質問デアリマス、現行ノ爭議調整法ハ今日ノ事態ニ適應シナイ點ガアリマスノデ、近ク勞働組合法ト共ニ新シク爭議調整法ヲ提案スル計畫ヲ進メテ居リマス、其ノ爭議調整法ノ中ニハ、公共事業ニ關シテハ最後の二強制調整ヲナシ得ル途ヲ開キタイト考ヘマシテ、其ノ方面ニ研究ヲ進メテ居リマス

次ニ勞働賃金ノ最低賃金制度、或ハ現在ノ時間制限、何レモ新事態ニ即應シナイ、更ニ新シキ事態ニ合致セシムル爲ニ最低賃金ノ制度ヲ定メテハドウカト云フ御説デアリマシタ、最低賃金ノ問題ニ付キマシテハ、昭和十五年ノ賃金統制令ニ依ル公定額ハ至急改正スルコトニ致シテ居リマス、時間ノ制限ニ付キマシテハ、十一月初頭ヨリ戰時中ノ諸法規ヲ廢シマシテ、今日工場法

ノ適用ヲ受ケルコトニナツテ居リマシタガ、更ニ檢討スルコトヲ致シタイト考ヘテ居リマス、最低賃金制度ニ付キマシテハ、御説ノ趣意ヲ參酌致シマシテ、今後爲テ考慮ス積リデアリマス、最後ニ失業保險制度ヲ設ケナケレバ、勞働行政ノ空虚ナルコトヲ示ス結果ニナルデハナイカト云フ御説デアリマシタ、失業保險問題ニ付キマシテハ、既ニ本議會ニ於テモ、二回政府ノ所信ヲ述ベタト考ヘテ居リマスガ、目下保險制度審議會ト云フ委員會ヲ組織致シマシテ、本日第一回ノ會合ヲ開イタ譯デアリマスガ、失業保險ノ問題ニ付キマシテモ、此ノ委員會ニ於テ敏速ニ調査研究ヲ致シマシテ、何等カノ成案ヲ得タイト考ヘテ居リマス

〔國務大臣子爵淺澤敏三君登壇〕

○國務大臣(子爵淺澤敏三君) 勤勞所得ニ對シマスル源泉課稅ヲ撤廢シタラドウカト云フ御質問ニ對シマシテ御答ヘテ申上ゲマス、所得稅ニ於キマシテ綜合所得稅、分類所得稅ノ兩者ヲ併用致シマシタノハ、昭和十五年ノ稅制改正ニ依ルモノデアリマス、其ノ目的トスル所ハ、負擔ノ均衡ト收入ノ彈力性ヲ企圖シタモノデアリマス、即チ綜合所得稅ハ所得ノ金額ニ依ツテ累進課稅ヲナシマシテ、所得ノ量ニ依ル所ノ負擔ノ均衡ヲ保タシムル共ニ、分類所得稅ハ資産ノ所得、事業所得、勤勞所得等ノ、即チ所得ノ種類ニ依リマシテ稅率ヲ異ニスル比例課稅ヲナシマシ

テ、所得ノ質ニ依ル所ノ負擔ノ均衡ヲ保ツテ、兩者相俟ツテ全體ノ負擔ノ衡平ヲ圖リ、且ツ比例稅率ニ依リマス爲ニ、其ノ稅率ノ變更ヲ容易ナラシメルノデアリマシテ、所得稅ノ稅收入ニ彈力性ヲ持タシタノデアリマス、現在益、國家ノ收入ノ確保ヲ圖ルコトガ必要デアリマス時ニ、既ニ綜合所得稅ニ於キマシテハ、稅率ニ對シマシテ或ル程度行詰リヲ來シテ居ル時ニ於キマシテ、分類所得稅ノ廢止ハ不適當ト考ヘテ居リマス、併シ將來分類所得稅ノ稅率改正ニ當リマシテハ、資產所得ニ重課シマシテ、勤勞所得ニ對シマスル稅率ノ引上ガ成ベク最小ニ止マルヤウニ、考慮シタイト存ジテ居ル次第デアリマス、尙ホ從來ノ課稅漏レノ御意見ニ付キマシテハ、戰時利得稅等ニ依リマシテ課稅シヨウト考ヘテ居リマス

○議長(島田俊雄君) 河野密君

〔河野密君登壇〕

○河野密君 私人只今議題トナリマシタ勞働組合法案ニ付キマシテ、極メテ簡潔ニ四、五ノ點ニ付テ御質問申上ゲタイト存ジマス

「ボツダム」宣言ヲ受諾シテ以來、民主主義ハ我が國ノ政治ノ根本要諦トナツタノデアリマスルガ、私ノ理解スル所ニ依リマスルト、民主主義ニハ二種アルノデアリマシテ、政治上ノ民主主義ト、經濟上ノ民主主義トガ存スルノデアリマス、政治上ノ民主主義ニ付キマシテハ、今茲ニ論議ヲ差控ヘマス

ルガ、經濟上ノ民主主義、所謂産業民主主義「インダストリアル・デモクラシー」ニ付キマシテ、私ハ質問ヲ申上ゲタイノデアリマス、産業民主主義ノ根本ヲ成スモノハ勞働組合法デアリマシテ、茲ニ勞働組合法ヲ提出ヲ見ルニ至ツタノハ極メテ當然デアルト言ハナケレバナリマセヌ、而シテ現在提案ヲ致サレマシタ勞働組合法ヲ檢討致シテ見マスルニ、比較的進歩的ナ法案デアリマシテ、此ノ種ノ立法トシテハ、先ヅ上乗ノモノデアルト我々ハ考ヘルノデアリマス、私ハ本法案ノ如キモノヲ短日月ノ間ニ立案セラレマシタル厚生當局ニ對シマシテハ、敬意ヲ表スル次第デアリマス、併シナガラ此ノ機會ニ勞働組合法ニ對スル二、三ノ質疑ト共ニ、勞働行政一般ニ對スル政府ノ所信ヲ承ハリタイト存ズルノデアリマス

第一ニ御願シタイノハ、總理大臣ニ對シテデアリマスルガ、「ボツダム」宣言ト本勞働組合法トノ關係如何、「ボツダム」宣言ノ第十項ニ、日本國政府ハ日本國民ノ間ニ於ケル民主主義的傾向ノ復強化ニ對スル一切ノ障礙ヲ除去セシトアルノデアリマス、本法案提出ノ根據ハ此處ニアルノデアアルカ、民主主義的傾向ノ復強化ニ對スル障礙ヲ除去スルハ、單ニ治安警察法ヲ廢スルトカ、治安維持法ヲ廢スルトカ云フコトダケデハナクシテ、進シテ社會的弱者タル勞働者階級ノ地位ヲ確立シ、法的擁護ヲ與ヘルト云フコト

ニ存スルト、斯様ニ解スルノデアリマス、シテ見ルナラバ「ボツダム」宣言ヲ受諾シタ當然ノ結果トシテ勞働組合法ハ、當然ニ制定セラルベキ不可缺ナル要求デアルト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、若シ然リトスルナラバ、本議會ガ此ノ法案ニ對シテ如何ナル態度ヲ執ラウトモ、又政府ガ之ニ對シテ如何ナル態度ヲ執ラウトモ、「ボツダム」宣言ヲ受諾シ、之ヲ忠實ニ履行セントスル以上ハ、本法案ノ如キモノヲ制定スルコトハ、絕對的ナル要件デアルト存ズルノデアリマスガ、此ノ點ニ對スル總理大臣ノ所信ヲ承リタイ、幣原總理大臣ハ繰返シテ「ボツダム」宣言ヲ忠實ニ履行スルノデアルト、斯様ニ申シテ居ルノデアリマスガ、其ノ忠實ナル「ボツダム」宣言ノ履行ト云フコトヲ前提ト致スナラバ、此ノ法案ノ通過、實施、運営ニ對シテモ、相當ナル覺悟ヲ有スベキモノデアルト存ズルガ、其ノ點ニ對スル總理ノ信念ヲ問ヒタイト思フノデアリマス

第二ハ政府ノ産業政策ニ對スル根本方針ニ付テ承ハリタイノデアリマス、戰前我が國ノ産業政策ハ低賃金、長勞働時間、所謂「チープ・レーバ」ニ基礎ヲ置イテ居タノデアリマス、是ハ蔽フベカラザル事實デアリマス、曾テ「ソーシャル・ダンピング」ノ論ガ國際的ニヤカマシクナツタノハ此ノ故デアリマス、當時私ハ本議場ノ此ノ壇上ニ於テ、少トモ政府ハ「ワシントン」國

際労働條約承認シ、一週四十八時間制ヲ採擇シテ、之ニ應フベキモノデア
ルト云フコトヲ主張致シタルデアリマ
スガ、今日ニ至ルマデ其ノ事ナク終ッ
タノデアリマス、此ノ低賃金、長労働
時間ニ立脚スルト云フ日本ノ産業ノ弱
點ト云フモノハ、戰時中モ其ノ儘繼續
致シマシテ、寧ろ日本ノ産業ハ戰時
中、中小工業ガ從ラ横ニ擴ガツタト云
フヤウナ形態ヲ具ヘテ居ルニ過ギナカ
ツタノデアリマス、近代工業ノ中樞ヲ
成スト言ハルル航空機工業ニ於テスラ
其ノ感ハ深クツタノデアアル、
「アメリカ」ト同ジ航空機産業ニ從事スル労働
者ヲ擁シナガラ、「アメリカ」ノ十分ノ
一程ノ生産能力スラ擧ゲルコトノ出来
ナカツタト云フ實情ハ、正ニ茲ニ基因
スルノデアリマス、日本ノ飛行機ノ
六割ヲ生産シタル稱スル三菱重工業
ノ名古屋工場ニ於テ、其ノ飛行機ノ
製品ヲ各務ヶ原ノ飛行場ニ送ル場合
ニ牛車ヲ使ツテ居テ、牛ヲ運搬スル
ノニ寧ろ「トラック」ヲ使ツテ居タ
ト云フヤウナ事實ハ、日本ノ産業ノ
弱點ヲマザ、ト露呈シテ居タモノ
デナカツタカト思フノデアリマス、
然ルニ戰後ニ至リマシテ、我が國ノ産
業政策ヲ如何ニスベキカハ各方面ノ檢
討ノ材料トナツテ居リマスガ、之ニ對
シテ未ダ根本的ナル意見ヲ承ルコトハ
出来ナイ、新日本建設ノ方向ヲ述ベタ
日本産業ノ代表者ト言ハルル鮎川義介
氏ハ、終戦後日本ノ産業ノ復興ハ低賃

金ニアリ、失業者ガ殖エテ賃金ガ低下
スルナラバ、日本ノ産業ハ復興ノ機會
ヲ得ルデアラウト云フコトヲ放言シテ
居ルノデアリマス、是ガ我が國ノ所謂
代表的ナル資本家ノ時局認識デアルト
存ズルノデアリマスガ、政府ハ之ニ對
シテ如何ナル考ヘヲ持ツテ居ルノデア
ルカ、我々ノ見ル所ニ依ルナラバ、戰
後ニ於ケル日本ノ産業復興ノ方向ハ、
高効率、高賃金、高度ニ機械化サレタ
ル産業ト、近代のナル勞務管理ト、文
化的ナル勤勞者生活ト、所謂高効率、
高賃金、而シテ生産第一主義ニ依ルベ
キモノデアルト、斯様ニ信ズルノデア
リマスガ、商工當局ノ御考ヘハ如何デ
アリマセウカ（拍手）先般「アメリカ」ノ
賠償大使デアル「ボロー」大使ガ日本
ニ參リマシテ、日本ニ於ケル工業ノ特
色ハ軍需生産ニ集中セラレテ居ル、併
シナガラ日本ノ工業ニハ、尙ホ民需生
産ノ能力ガ十分ニ残存シテ居ル、日本
ノ完全ナル非武裝化ヲスルコトニ依ッ
テモ、日本ノ工業ヲ全面的ニ否認スル
モノデハナイ、斯様ナ前提ノ下ニ於テ
現物賠償ノ具體的措置トシテ、工作機
械ニ付テハ是レ、造船所ニ付テハ
是レ、鋼鐵ニ付テハ二百五十萬
「トン」ヲ超ユルモノハ禁止、電力ニ付
テハ是レ、化學工業ニ付テハ是レト、
中間的ニ、日本ヨリ取去ルベキ工業設
備ノ移動案ヲ發表致シテ居ルノデアリ
マスガ、此ノ發表ヲ見タ今日ニ於テ、
商工當局ハ如何ナル對策ヲ以テ日本ノ

産業ノ將來ニ對セントスルノデア
ルカ、此ノ日本産業復興ノ方向ニ付テ如
何ナル具體策ヲ持ツテ居ルノデア
ルカ、我々ノ見ル所ニ依ルナラバ、所謂
勤勞者ヲ中心ニシテ日本産業ノ復興ヲ
圖ル以外ニナイト信ズルガ、商工當局
ノ御信念如何、此ノ點ヲ承リタイノデ
アリマス
第三ニ産業民主制ノ内容ニ付テ政府
ハ十分ナル理解ヲ有スルヤ否ヤト云フ
コトデアリマス、先程ノ此ノ壇上ニ於
キマシテモ、多クノ論ヲナスモノガア
リマシタガ、世上ニ於テモ同ジヤウナ
コトヲ言ツテ居ルノデアリマス、労働
組合ヲ放任スルナラバ、産業ノ荒廢ヲ
來スノデハナイカ、或ハ事業ヲ國營ニ
移スナラバ、之ニ依ツテ能率ヲ阻害ス
ルノデハナイカ等々、世間ノ論者ト云
フモノハ、皆サウ云フコトヲ論ジテ居
ルノデアリマス、併シナガラ我々ノ見
ル所ハ労働者ニ労働組合ヲ組織セシ
メ、労働組合ヲ企業ニ參畫セシメ、權
利ト共ニ義務ヲ與ヘ、地位ト共ニ責任
ヲ與ヘルコトガ生産ヲ増大シ、能率ヲ
増進スル所以デアルト信ズルガ、政府
ノ所信ハ如何デアリマセウカ、我々ハ
重要産業ニ付テハ國營ヲ主張スルノデ
アリマス、今日ノ事態ニ於テ國營ヲ以
テ産業ノ復興ヲ圖ル以外ニ途ガ
アルデアリマセウカ、然ルニ多ク
ノ者ハ國營産業ノ非能率化ヲ説
キ、官僚支配ト混合スルコトニ
依ツテ之ニ反對ヲスルノデアリマ

ス、併シナガラ事實ハ決シテサウデハ
ナイ、從來國營産業、專賣事業ノ能率
ノ上ラナカツタノハ、ソレニ從事スル
従業員ニ組織ヲ與ヘ、従業員ヲシテ生
産ニ對シテ責任ヲ持タセナカツタカラ
デアルト私ハ信ズルノデアリマス、
（拍手）戰時中鐵道ノ運営ニ當ツタ者ハ
誰デアツタカ、戰時中船舶ノ運営ニ當
ツタ者ハ誰デアツタカ、空襲下ニ於テ
鐵道ヲ誤リナク運営シタ者ハ、鐵道省
ノ幹部室ニ納マツテ居ル高級ノ人々ニ
アラズシテ、實ハ、オ下髪ニ結ツタ十
五、六位ノイタイケナ少女達ガ國家大
事ト思ツテ働イタ、其ノ作業能率ニ依
ルモノト私ハ信ズルノデアリマス、我
我ハ此ノ鐵道従業員ニ組織ヲ與ヘ、勞
働者ニ組織ヲ與ヘテ、責任ヲ義務ヲ訓
練トヲ與ヘルナラバ事業ノ運営、能率
ノ増進期シテ俟ツベキモノアリト信ズル
ノデアリマスガ、此ノ點ニ付テノ政府
ノ所信ヲ承リタイノデアリマス、殊ニ
全國四十萬ノ鐵道従業員ヲ擁スル運輸
省、全國三十萬ノ従業員ヲ擁スル逓信
院ト云フモノガ、如何ナル勤勞者對策
ヲ考ヘテ居ルカ御開陳ヲ願ヒタイ、殊
ニ我々ガ極メテ不思議ニ思フノハ、厚
生省ガ極メテ進歩的ナル労働組合法ヲ
提出致シテ居リマスル反面ニ於テ、鐵
道省ハ鐵道省トシテ、恰モ厚生省トハ
相關セザルガ如ク、鐵道委員會ヲ作ッ
テ、横斷的ナル労働組合ノ組織ヲ寧ろ
阻止スルガ如キ方向ヲ執ツテ居ルヤニ
聞クノデアリマスガ、此ノ點ニ對ス

ル運輸當局ノ答辯ヲ求メタイト思フノ
デアリマス、我々ノ見ル所ニ依リマス
ルナラバ、官業ノ従業員ト雖モ、鐵道
省、逓信院、或ハ專賣局等ノ従業員ト
雖モ、ソレ等ノ者ガ労働組合ヲ組織シ
タナラバ、其ノ労働組合ハ總テ横斷的
ナ組織ニ加入スルコトヲ許シ、ソレ等
ノ労働組合ニ對スル行政ハ、厚生當局
ガ他ノ一般労働者ニ對スル同ジヤウ
ナ取扱ヲナスベキモノデアルト信ズルガ
所見如何、同時ニ今日労働組合法ノ制
定ヲ見タ反面ニ於テ、各會社、事業場
ガ爭ツテ労働組合ヲ作ツテ居リマスル
ガ、是ハ看板ヲ塗變ヘタ所謂「コンパ
ニエユニオン」會社組合ヲ作ルコトニ
汲々トシテ居ルノデアリマスルガ、是
等ノ點ニ付テノ政府ノ所見ヲ承リタイ
ト存ジマス
第四ニ團結權ト、團體交渉權ト、罷
業權ト三ツガ労働權ノ内容ヲナスモノ
デアリマシテ、隨テ労働立法ノ體系ハ
労働組合法、團體協約法、労働爭議調停
法ノ三本建デ、所謂三位一體ニ依ツテ
其ノ目的ヲ達スベキモノト我々ハ信ジ
マス、今回ノ労働組合法ニハ團結權、
團體交渉權ニ付テハ明確ナル規定ヲ設
ケテ居ルノデアリマスルガ、労働爭議
調停法ニ關シテハ、労働委員會ヲ設ケ
ルト云フ以外ニ、具體的ナル方向ヲ明
示シテ居リマセヌ、先程ノ厚生大臣ノ
御答辯ニ依リマスルト、労働爭議調停
法ヲ近ク改正スルト云フコトデアリマ
スルガ、現下ノ労働爭議調停法ニ鑑ミ

テ、如何ナル改正ヲナサントスルノデ
アルカ、又労働争議ノ所謂自然調停ト
云フモノニ對シテ如何ナル方針ヲ持タ
レドアルカ、此ノ點ニ付テノ御答
辨ヲ煩ハシタイ存ジマス

第五ニ現下ノ急務アル石炭ノ増産
ニ付テ、商工當局ニ御尋ネテ申上ゲタ
イノデアリマス、我々ハ先般石炭ノ増
産ニ關スル我々ノ所見ヲ當局ニ具申
致シマシタ、其ノ要旨トスル所ハ從
業員組合ヲ作ツテ、其ノ從業員ノ熱
意ヲ喚起スルコトニ依ツテ石炭ノ増
産ヲ圖ルベシト云フノデアリマス、
然ルニ其ノ後商工當局ノ案ヲ見マス
ルト、石炭廳ヲ御作リニナリ、從業
命令ヲ發給シテ此ノ危機ヲ突破セラ
レントスルヤウデアリマス、我々ノ
要求スルノハ石炭ノ増産デアツテ、官
廳ノ増産ハナインデアアル、法令ノ制
定ハナインデアリマス、從來我々國
ノ官廳ハ事有ル毎ニ役所ヲ増設シ、事
有ル毎ニ法令ヲ制定シ、法令ノ官廳ノ
増産ハ出來テ居ルケレドモ、具體的ナ
ル現物ノ物資ノ増産ハ、常ニ出來ナイ
ト云フノガ我々國ノ從來ノ官廳ノ弊デ
アル(拍手)之ニ對シテ商工當局ハ如何
ナル對策ヲ持ツノデアアルカ、我々ノ觀
所ニ依リマスルナラバ、現在炭礦從
業員ハ二十數萬居ルト存ジマスガ、二
十數萬ノ炭礦從業員ハ全ク熱意ヲ失ツ
テ居ル、其ノ熱意ヲ失ツテ居ル根本ノ
原因ハ、低賃銀ト、食糧難ト、配給ノ
不正、言ヒ換ヘルナラバ炭礦ノ從業員

ヲ人間トシテ取扱フテ居ラス點ニアル
ノデアリマス(拍手)私ノ所ニ參リマシ
タ常務炭礦坑夫ノ總アル所ニ依リマス
ルト、炭礦坑夫ガ一日働キニ持ツテ行
ク所ノ糧食、晝食ノ糧食ガ六圓五
十錢掛ル、而モソレニ依ツテ得ル所ノ
賃金ハ八圓デアアル、是デドウシテ炭
坑夫ガ石炭ヲ掘ル所ノ熱情ガ湧クデア
ラウカト言ツテ居ル、新聞紙ノ傳フル
所ニ依レバ、北海道ニ於ケル美唄ノ炭
礦ニ於テハ炭礦坑夫ノ賃銀、手當ヲ合
セテ二十圓ニスベキモノデアルトノ要
求ガ出サレテ居ルノデアリマスルガ、
少クトモ最低ノ食糧ヲ政府ニ依ツテ確
保スルカ、然ラズンバ二十圓程度ノ炭
礦賃銀ニマデ上ゲルニアラズンバ、此
ノ石炭危機ハ斷ジテ切抜ケルコトハ出
來ヌト信ズルガ、政府ノ所見如何

次ニ私ハ日儲勞務者ノ問題ニ付テ御
尋ネテ致シマス、此ノ労働組合法ト日
儲勞務者トノ關係ハドウデアアルカ、日
儲勞務者ト一口ニ申シマスルガ、此ノ
日儲勞務者ノ範圍ハ極メテ複雑多岐ニ
分レテ居リマス、大工、左官、石工ナ
ドノ如ク獨立テ營業ヲ營ンデ居ル者モ
ゴザイマス、何々組、何々會社ト、時
ニ常備的ニ雇ハレテ居ル所ノ勞務者モ
アリマス、沖仲仕、沿岸仲仕、或ハ小
運搬業ニ從事シテ居ル者モゴザイマ
ス、或ハ失業者ノ別名トモ言フベキ登
録勞務者ノ如キモノモアルノデアリマ
ス、是等ノ勞務者ノ總テハ昭和十五年
百五十九萬ト言ハレテ居リマシタ、最

モ長氣ノ好イ時代ニ於ケル百五十九
萬、昭和十年末ニハ二百四十四、五萬
ヲ數ヘテ居タノデアリマス、今日此
ノ日儲勞務者ハ、私ハ益々確エテ行ク
所ノ傾向ニアルト思フノデアリマス
ガ、此ノ日儲勞務者ノ對策、此ノ日儲
勞務者ヲシテ如何ニシテ労働組合ヲ組
織セシムルカ、現在アル労働協會、之
ヲ如何ニ處置セントスルモノアルカ、
厚生當局ニ御尋ネテ致シタイノデアリ
マス

次ニ私ハ法文ノ内容ニ付テ、二、三
點ヲ御尋ネテ致シタイと思ヒマス、此ノ
法律、労働組合法案ハ團體ニ申上ゲマ
シタヤウニ、各國ニ於テ労働組合ガ問
題トナツタ多クノ點ハ、之ニ取入レテ
レテ解決ヲ致シテ居リマス、例ヘバ
「タフ・ペール」事件トシテ有名ナル
組合ノ賠償問題ニ付テハ、本法案ノ
第十二條ニ依ツテ解決ヲ致シテ居
リマス、或ハ「オス・ボーン」判決トシ
テ世界的ニ有名ナル政治資金ノ問題
ニ付キマシテハ、第十三條ニ依ツテ
解決ヲ致シテ居リマス、併シ今一ツ
各國ノ立法例ニ於テ問題トナツテ居
リマスル労働争議ニ對スル「ビケッ
チング」所謂争議ヲスル場合ニ、オ
前争議團ニ入レト勸誘スル場合ニ於ケ
ル所謂「ビケッチング」問題ニ付テ如
何ニ考ヘテ居ルノデアアルカ、此ノ點ヲ
明確ニシテ載キタイノデアリマス、本
法第一條ノ第二項ニ「刑法第三十五條
ノ規定ハ労働組合ノ團體交渉其ノ他ノ

行爲ニシテ」云々ト書イテ居リマスル
ガ、此ノ第一條第二項ノ趣旨ハ、各國
ニ於テ問題トナツテ居ル「ビケッチン
グ」ノ如キモノニ對シテハ、之ヲ合法
ナリト斯様ニ見地ニ立ツテ居ルモノデ
アルカドウカ、此ノ點ヲハツキリト御
答辯ガ願ヒタイト存ズルノデアリ
マス

次ニ本法ニ労働者ノ範圍ガ極メテ廣
クナツテ居ルノハ我々ノ賛成スル所デ
アリマス、唯第四條ノ第二項ニ於テ官
公吏ニ對スル所ノ特別ナル規定ガゴザ
イマス、此ノ點ニ付キマシテハ先程實
問ニ對シテ厚生當局カラ答辯ガアツタ
ノデアリマスルガ、官公吏ノ他ニ於
テ、官吏モ労働者ト同一ノ労働組合ニ
加入スルト云フコトヲ認メテ居ルノデ
アルカドウカ、官吏、公吏ト雖モ、其
ノ從業員ト同ジ線列ノ上ニ立ツテ、勞
働組合ニ加入スルコトヲ認メテ居ル趣
旨デアアルカドウカ、其ノ場合ニ其ノ官
吏ニ對スル取扱ヒニ付テハ、先程ノ勸
令ニ委ネテアリマスル例外規定ノ適用
ハ如何相成ルノデアアルカ、此ノ點ヲ御
尋ネ申上ゲタイノデアリマス

以上極メテ簡潔デアリマスルガ、本
法案ヲ手ニ致シマシテ、私ノ考ヘテ居
ル所ノ所見ノ一端ヲ申述ベツ、政府ノ
御答辯ヲ求メタイノデアリマス

労働ハ國家ノ基本デアリマシテ、勞
働ナクシテ日本ノ再建ハアリ得ナイト
信ジマス、労働權ガ憲法ノ上ニ規定セ
ラレテ居ル所ノ國家ノアルコトハ周知
ノ如クデアリマス、獨リ我が國ニ於キ
マシテハ労働保護ノ遲レテ居ルコト、
是レ亦周知ノ事實デアリマス、此ノ勞
働保護ノ遲レテ居ツタ其ノ一點ヨソ
ガ、日本ヲシテ斯クノ如キ悲境ニ臨レ
タ有力ナル原因ノ一ツヲナシテ居ルト
私ハ確信スルノデアリマス、今労働組
合法ノ提案ヲ見タ、此ノ労働組合法ノ
提案ガ今年早カツタナラバ、日本ハ
如何相成ツテ居ラウカ、我々
ハ徐ロニ既往ヲ回顧シテ、萬感胸ニ迫
ルモノガアルノデアリマス、政府ハ
「ボツダム」宣言ニ規定サレテ居ルカ
ラ、已ムヲ得ズシテ之ヲ出シタノデア
ルト云フヤウナ消極的ナル態度ヲ執ルベ
キデナク、是コソガ日本再建ノ土臺ヲ
ナスノモノデアアル、之ニ依ツテコソ日
本再建ノ途ガ開カレルモノデアルト云
フ熱情ヲ持ツテ、此ノ法案ノ運営ニ當
ラナケレバナラナイト私ハ信ズルノデ
アリマス、從來厚生當局ハ動モスレバ
厚生行政ニ對スル熱意ヲ缺ク體ミガ多
カツタノデアリマスルガ、願ハタハ自
己ノ所信ニ邁進シ、一生ノ仕事トシテ
デモ、労働行政ノ革新ヲナシ、労働者
福祉ヲ進メテ自ラ自ラ天職トスルト
云フヤウナ氣持ニ於テ、厚生當局ガ熱
情ヲ持ツテ本法案ノ運営ニ當ランコト
ヲ衷心ヨリ希望致シマシテ、私ノ質問
ヲ終ル次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣男爵幣原喜重郎君答辯〕
○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 只今
河野君ヨリ私ニ對スル御質問ノ要點

ハ、先づ「ボツダム」宣言ト此ノ勞働組合法トノ關係如何ト云フコトト、ソレカラ本案ノ通過實施ニ付テノ私ノ考ヘ如何ト云フ點デアリマス、之ニ御答申上デマスガ、「ボツダム」宣言ニ於キマシテ、我が國ハ民主主義の傾向ノ復活、強化ニ對スル一切ノ妨害ヲ除去スベシト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、此ノ民主主義の傾向ノ復活、強化ニ付キマシテ當然考ヘナケレバナラヌコトハ、勞働者ノ地位向上ノ問題デアリマス、私ハ本案ノ成立ニ依リマシテ、勞働者ノ團結權ヲ保障シ、團體交渉權ヲ保護シ、助成シ、以テ勞働者ノ地位ノ向上ヲ圖リ、我が國ノ經濟ノ民主主義的發展ニ寄與スルコトガ大ナルモノガアリト信ヅテ居ルノデアリマス、何モ「ボツダム」宣言ニ書イテアルカラ厭ヤ／＼ナガラ斯ウ云ツダヤウナ方向ニ進ンデ行クト云フコトデアリマセヌ、日本ノ將來ヲ思ヒ、日本ノ經濟ノ前途ヲ考ヘマスレバ、ドウシテモ此ノ方向ニ進ンデ行クシカナイト私ハ考ヘテ居リマス、是ガ即チ我が國ノ國民幸福ニ寄與スル所以デアルト考ヘマス、此ノ信念ニ基キマシテ私ハ本案ニ臨ンデ居ル者デアリマス

ラヌト考ヘテ居リマス、而シテ能率ノ増進ニ依ツテ得マシタ利益ハ當然之ヲ勞資雙方ニ收得セシメ、勞働者ニ對シテハ就業時間ノ短縮、賃金ノ増加ヲ圖リ、以テ勞働條件ノ改善ニ資シテ、尙ホ能率向上ヲ進メタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ産業ノ復興ニハ勞働ガ基礎デハナイクト云フ御話ニ對シマシテハ、此ノ御意見ハ全然同感デアリマス、特ニ日本ガ外國ヨリ原料ヲ輸入シ、製品ヲ輸入物資ノ見返リ等トシテ輸出シナケレバナラヌ場合ニ、勞働ガ其ノ基礎デアリマスルコトハ申スマデモナイコトデゴザイマシテ、私共モ河野君ト同様ナ考ヘテ持ツテ居ル次第デゴザイマス

其ノ次ニ重要産業ヲ國營化シタラドウカト云フ御意見デアリマシタガ、之ニ付テハ、私共モ産業ノ國營ト云フコトハ、必ズシモ産業ノ民主主義化ト紙觸スルモノデナイ、斯ウハ考ヘテ居リマスガ、併シ敗戦後ニ於キマスル我が國ノ國情、各般ノ狀況等カラ見マシテ、主要産業ヲ國營化スルト云フ意思ハ、現在ノ所持ツテ居リマセヌ

ソレカラ先般河野君等、社會黨ノ各位ガ決議書ヲ齎サレマシテ、炭礦ニ對シテ色々御要望ガゴザイマシタ、御尤モナ點モ多々アルノデゴザイマスルガ、今御尋ネニナリマシタ二ツノ點ダケニ付テ御答ヘヲ申上ゲマス、ソレハ一ツハ勞働組合ヲ各炭礦デ結成サセテ、組合員ノ熱意ヲ喚起シテ、石炭ノ増産ニ邁進セシムルヤウニ御話デゴザイマス、此ノ點ニ付キマシテハ商工省ト致シマシテモ、炭礦ニ健全ナル勞働組合ノ結成セラレコトハ、石炭増産上海ニ望マシイコトダト考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ業者ニ於キマシテモ、健全ナル組合ノ結成セラレコトハ、歡迎シテ居ルト云フ實情デゴザイマス

其ノ次ニ炭礦從業員ニ對スル食糧並ニ必需物資確保ノ萬全ヲ期ジ、且ツ其ノ配給權ヲ勞働組合ニ與ヘ、後顧ノ憂ヒナク増産ニ専念セシムルコト云フ御要望デアリマシタ、從業員ニ對スル食糧並ニ必需物資ノ確保ノ萬全ヲ期シマスルコトハ、最モ緊要ナ事項ト思ヒ、現在モ極力努力シツ、アリマスルガ、今後ニ於キマシテモ、此ノ方面ニ大イニ努力スル考ヘデゴザイマス、唯配給權ノ問題デゴザイマスガ、此ノ配給ニ付キマシテハ、業者ノ側ニモ十分責任ヲ負ツテ貰ハナケレバナラヌト考ヘマスシ、又勞務者ノ側ニモ、十分其ノ分配ノ公平デアルト云フコトヲ、納得シテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマスルノデ、其ノ間ニ何等カノ機構ガ要ルト思ツテ居リマスルガ、目下研究中デゴザイマシテ、私ハ此處デ確答ハ出來マセヌケレドモ、例ヘバ委員會ノ如キモノヲ作リマシテ、經營者側ト勞務者側トガ兩方互ニ参加シテ、配給ノ公明ヲ期スルト云フヤウナコトニシタラ如何カト考ヘテ居ル次第デアリマス、更ニ賃金ノ増加ニ付テ二十圓ニ引上ゲロト云フヤウナ御話ガゴザイマシタガ、御承知ノ如ク十一月ノ一日ヨリ大幅ノ引上ヲ行ヒマシテ、八割ノ引上ヲ行ツタノデアリマス、併シ是ハ當ニ賃金ノ引上ヲ行ツタバカリデナク、食糧、生活必需品物資等ノ増配等モ致シマシテ、勞働條件ガ改善サレテ居ルコトハ、河野君ノ御承知ノ如クデアリマス、併シナガラ尙ホ實情ヲ能ク吐露シ合ヒマシテ、其ノ實情ニ即シテ更ニ引上ヲ要スルト致シマスナラバ、之ヲ引上ゲル考ヘデアリマス

（國務大臣田中武雄君登壇）
○國務大臣田中武雄君（河野君ニ御答ヘヲ申上ゲマス、鐵道委員會ハ決シテ横斷的ナル勞働組合ヲ阻止スル意味ヲ以テ作ツタモノデアリマセヌ、只今上程ニナリマシタ勞働組合法ガ通過ヲ致シマシテ、官吏ニ對スル處置等モ決リマシタ上ハ、十分從事員ノ意思ヲ聽キマシテ、勞働組合ヲ認メテ參ル積リデアリマス、ソシテ其ノ組合ガ國際線上ニ於ケル理想的ノ存在ヲ示シテ呉レルヤウニ、私ハ念願ヲ致シテ居リマス云フコトヲハツキリ申上ゲテ置キマス（拍手）

（國務大臣片岡健吉君登壇）
○國務大臣片岡健吉君（河野君ノ御質問ニ係ル第一問中、組合法案ノ中ニ於テ爭議調停ニ關スル規定ガ極メテ大筋シカ掲ゲラレテ居ナイガ、ドウ云フ方針デアアルカト云フ御尋ネデゴザイマス、此ノ法律ノ中ニハ勞働委員會ガ爭議ノ調停、仲裁等ニ付テ斡旋スルコトヲ定メテ居リマスガ、更ニ爭議調停ノ完全ヲ期スル爲ニ、目下爭議調停法ノ改正ヲ考慮シテ居リマス、勞働爭議調停法ノ改正ニ當リマシテ、差當リ考慮スベキ點ハ次ノ如クデアルト思ヒマス、第一ニハ爭議ノ事前調停ヲ制度化スルコトデアリマス、第二ニ強制調停ノ範圍ヲ擴大スルト云フ點デアリマス、第三ニハ必要ニ依ツテハ爭議行為ノ禁止又ハ中止命令ヲ發シ得ル如クニ改メルト云フコトデアリマス、第四ニ勞働委員會ヲ調停法上ノ常設爭議調停機關トシテ活用スルト云フ點デアリマス、第五ハ勞働委員會ノ爭議調停ニ場合ニ依ツテハ決定拘束力ヲ有セシメルト云フ點デアリマス、之ニ依ツテ今後ノ爭議調停ハ、極メテ圓滑ニ且ツ迅速ニ行ヒ得ルコトト信ジテ居リマス

次ニ日僱勞働者ノ問題デアリマス、日僱勞務者ノ適正ナル管理ヲ行フコトハ、非常ニ困難ナモノデアリマスガ、併シ從來トモ賃金等ニ付キマシテハ、或ル程度賃金ヲ公定シ、又實情ニ即シタ協定賃金ノ制度ヲ認メテ居リマス、河野君ヨリ現在ノ勞務協會ヲドウスルカト云フ御質問ガアリマシタガ、勞務協會ハ最近ニ解散ヲスルコトニ決定致シマシタカラ、其ノ點ハ御諒承ヲ願ヒマス

次ニ爭議ノ際勞務者ガ「ビケツチン

グ「ヲ行フコトガ果シテ爭議行爲トシ
テ正當ナルカドウカノ意見ヲ明白ニ
顯キタイト云フコトデアリマス、先程
本案提出ノ理由ヲ説明致シマシタ時
ニ、其ノ中ニ労働組合ノ團體交渉、
「ビケツチン」其ノ他ノ爭議行爲ニシ
テ正當ナルモノニ付テハ、刑法第三十
五條ノ適用アルコトハ勿論デアルト申
述ベタノデアリマスガ、「ビケツチン
グ」ヲ爭議ノ正當行爲トシテ認メル
趣意デ此ノ法案ハ出來テ居ルノデアリ
マス

ニ制約ヲ定メルコトヲ考慮致シテ居リ
マス、以上厚生省ニ對スル質問ニ御答
ヘシタ次第デアリマス
○河野密君 此ノ席カラノ發言ヲ御許
シ願ヒタイト思ヒマス——一ツハ商工
大臣デアリマスガ、先程私ノ質問ノ趣
旨ガ徹底シナカッタ存ジマスルケレ
ドモ、先般賠償物資ガ中間的ニ發表致
サレマシテ、此ノ賠償物資ノ履行ニ依ッ
テハ、日本ノ産業ハ將來如何ナル形ニ
ナルカト云フコトガ重大ナル問題デア
ラウト存ジマス、是ハ獨リ事業家、企業
家ノミガ之ニ關心ヲ有スルモノデナク
シテ、全日本ノ勤勞者全般ノ問題ニモ
關係ヲ致スコトデアルト思フノデアリ
マシテ、若シ其ノ賠償ノ點ニ付テ勤勞者
ノ熱意ヲ披瀝スルコトガ必要ナリトス
ルナラバ、我々ハ之ヲ咨カトスルモノ
デハナイノデアリマスルガ、唯其ノ案
ノ發表ニ依ツテ商工當局ガ如何ナル考
ヘヲ持ツテ居ルカ、商工當局ノ見透シ
如何、之ニ依ツテ我々モ亦對策ヲ考ヘ
ナケレバ相成ラヌト云フ趣旨ニ於テ、
此ノ點ヲ御尋ネ申上ゲタノデアリマ
ス、就キマシテハ、此ノ點ニ付テノ重
ネテノ御答辯ヲ煩シタイト存ジマス、
今一ツハ厚生大臣ノ最後ノ御答辯ノ中
ニ、官吏ニ付テノ特別ナル取扱ヒヲス
ルコトニ付テハ私モ諒致シマス、唯
鐵道従業員、或ハ逓信従業員、或ハ專
賣局ノ如キ官營事業、公營事業等ニ於
テ、官吏ト従業員トガ共ニ組合ヲ組織
スルコトガ出來ルノデアアルカドウカ、

其ノ場合ニ於ケル例外規定ハ其ノ従業
員組合ノ中ニ於ケル官吏ノミニ適用ガ
アルノカドウカ、此ノ點ヲ明確ニシテ
欲シイ、是ガ私ノ質問ノ趣旨デアリマ
ス、以上二點ニ付テ御答辯ヲ煩ハシタ
イト存ジマス
〔國務大臣吉田均君登壇〕

○國務大臣(吉田均君) 只今河野君ノ
官吏ノ組合ニ對スル御質問ニ御答ヘ致
シマス、現業職ニ於テ官吏ト職員、ソ
レガ一ツノ組合ニ組合員トシテ參加シ
得ルヤ否ヤト云フ御尋ネデアリマス、
御承知ノ通り使用者ノ代表ト認メラレ
ル如キ人間ガ組合ニ加入スル場合ニ
ハ、労働組合トハ認メナイト云フ規定
ガアリマスカラ、國家ヲ代表スル地位
ニ居ルカドウカト云フ問題ガ相當重要
ナ意味ヲ持ツ關係上、例ヘバ局長デア
ルトカ、課長デアルトカト云フモノヲ
果シテ國家意思ヲ代表スルモノト認メ
テ、之ニ加入ヲ許サナイカドウカト云
フコトハ、個々ノ官廳ニ付テ現實ニ判
斷ヲシタ上デナイト、抽象的ニハ定メ
兼ネル點ガアルト思ヒマス、併シナガ
ラ官吏ト従業員トガ一ツノ組合ニ加入
スルコトヲ禁ズルト云フ趣意デハ出來
テ居リマセス、以上御答ヘ致シマス
○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

工當局カラ其ノ所信ヲ明カニセラレ
シコトヲ要望致シマシテ、私ノ質問ヲ
終リマス
○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

其ノ場合ニ於ケル例外規定ハ其ノ従業
員組合ノ中ニ於ケル官吏ノミニ適用ガ
アルノカドウカ、此ノ點ヲ明確ニシテ
欲シイ、是ガ私ノ質問ノ趣旨デアリマ
ス、以上二點ニ付テ御答辯ヲ煩ハシタ
イト存ジマス
〔國務大臣吉田均君登壇〕

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

應專賣法中改正法律案
應專賣法中左ノ通改正ス
第二十四條ノ二 應ノ需給調整上特
ニ必要アルトキハ第四條、第五
條、第七條、第九條、第十一條第
二項、第十二條、第十四條第一項
及第十八條第二項(第九條及第十
一條第二項ニ付テハ第四十條及第
四十條ノ二ニ於テ、第十二條ニ付
テハ第四十條ニ於テ準用スル場合
ヲ含ム)ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以
テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム
昭和二十年法律第十八號中改正法
律案
昭和二十年法律第十八號中左ノ通改
正ス
第一條中「百十二億千三百八十萬圓」
ヲ「百十四億千九百二十萬圓」ニ改ム
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
參照
昭和二十年法律第十八號ハ昭和二
十年度一般會計歲出入財源ニ充ツ
ル等ノ爲ノ公債發行ニ關スル法律
ナリ

〔國務大臣子爵遊澤大藏三君登壇〕
○國務大臣(子爵遊澤大藏三君) 只今議
題トナリマシタ應專賣法中改正法律案
外一件ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説
明致シマス
先ゾ應專賣法中改正法律案ニ付キ御
說明致シマス、終戦後應ノ需給ハ、海

○議長(島田俊雄君) 河野君、商工大
臣ハ今他ノ委員會ノ爲メ退席サレマシ
タカラ、アナタノ商工大臣ニ對スル質
問ハ委員會デハドウデスカ
○河野密君 此ノ點ハ極メテ重大ナル
點デアリマスルノデ、適當ノ機會ニ商

○議長(島田俊雄君) 是ニテ質疑ハ終
了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベ
キ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第二及第三ハ便宜上一括
議題トナスニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ日程第二、應專賣法中改
正法律案、日程第三、昭和二十年法律
第十八號中改正法律案、右兩案ヲ一括
シテ第一讀會ヲ開キマス——遊澤大藏
大臣
第二 應專賣法中改正法律案(政
府提出) 第一讀會
第三 昭和二十年法律第十八號中
改正法律案(昭和二十年度一般
會計歲出入財源ニ充ツル等ノ爲
ノ公債發行ニ關スル件)(政府
提出) 第一讀會

依り蠶絲ノ生産、配給、消費、使用、價格、輸出又ハ輸入ノ統制ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 蠶絲業者ハ其ノ蠶絲業ノ改良發達ヲ圖ル爲共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ蠶絲協同組合ヲ設立スルコトヲ得

蠶絲協同組合ハ法人トス

第二十二條 蠶絲協同組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ生産又ハ取扱ニ係ル蠶絲ノ加工又ハ販賣

二 組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ共同購入及共同設備ノ設置

三 組合員ノ生産シタル蠶絲ノ検査

四 前各號ニ掲グルモノノ外蠶絲協同組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

第二十三條 蠶絲協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ名稱中ニ蠶絲協同組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フベシ

蠶絲協同組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ蠶絲協同組合タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十四條 蠶絲協同組合ヲ設立セシメタルキハ蠶絲業者七人以上設立者ト爲リ定款ヲ作成シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後二週間以内ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ主たる事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

蠶絲協同組合ハ前項ノ設立ノ登記ヲ爲シ并ニ國ヲ成立ス

第二十五條 蠶絲協同組合ノ組合員ハ前項ノ規定ニ依リ其ノ資格ヲ具備スルモノトシテ之ヲ得

第二十六條 蠶絲協同組合ニ總會ヲ置ク

總會ハ總會組合員ヲ以テ之ヲ組織ス

蠶絲協同組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ二ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十八條 蠶絲協同組合ニ理事及監事ヲ置ク

理事及監事ハ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

特別ノ事由アルトキハ理事及監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條 蠶絲業者又ハ其ノ團體（農業團體ヲ含ム）ハ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ル爲目的ヲ以テ蠶絲業者ヲ設立スルコトヲ得

蠶絲業ニ密接ナル關係アル事業ヲ營ム者又ハ其ノ團體ハ蠶絲業者ノ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ト爲ルコトヲ得

蠶絲業者ハ法人トス

第三十條 蠶絲業者ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 蠶絲業ノ指導獎勵ニ關スル施設

二 蠶絲業ノ聯絡及統制ニ關スル施設

三 蠶絲業ニ關スル調査及研究

四 前各號ニ掲グルモノノ外蠶絲業者ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

蠶絲業者ハ前項各號ニ掲グル事業ノ外第二十二條第一號乃至第三號ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

第三十一條 蠶絲業者ヲ設立セントスルトキハ蠶絲業者十人以上設立者ト爲リ地區内ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ議決スベシ

全國ヲ地區トスル蠶絲業者ヲ設立セントスル場合ニ於テ特別ノ事由ニ因リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ蠶絲業者二十五人以上設立者ト爲リ設立ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 蠶絲業者ハ其ノ會員ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

蠶絲業者ハ其ノ事業ヲ行フ爲必要アルトキハ會員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ會員ヲシテ出資ヲ爲サシムル蠶絲業者ハ會員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

第二項ノ規定ニ依リ會員ヲシテ出資ヲ爲サシムル蠶絲業者ハ會員ノ責任ハ第一項ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第三十三條 蠶絲業者ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第三十四條 蠶絲業者ハ總會及評議員會ヲ置ク

總會ハ議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十五條 議員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ會員之ヲ選舉ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

特別議員ハ蠶絲業ニ關シ學識經驗アル者ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

評議員ハ議員及特別議員ノ中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

第三十六條 議員及特別議員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第三十七條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶絲業者ノ申請ニ因リ其ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ對シ當該蠶絲業者ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三十八條 全國ヲ地區トスル蠶絲業者ハ命令ヲ以テ定ムル者ヲ會員トスルモノハ蠶及生絲ノ價格ノ安定ヲ圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ繭絲價格安定資金ヲ設定スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繭絲價格安定資金ニ繰入レタル金額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ特別法人稅法ニ依ル剩餘金ノ計算上之ヲ益金ニ算入セザルコトヲ得

第三十九條 第二十三條及第二十八條ノ規定ハ蠶絲業者ニ之ヲ準用ス

第四十條 蠶絲協同組合又ハ蠶絲業者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十一條 行政官廳ハ蠶絲協同組合又ハ蠶絲業者ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シタルトキハ其ノ決議ヲ取消シ、役員ノ改選ヲ命ジ、業務ヲ停止シ又ハ解散ヲ命ズルコトヲ得

第四十二條 本法ニ規定スルモノノ外蠶絲協同組合又ハ蠶絲業者ノ設立、管理、解散、清算其ノ他蠶絲

協同組合又ハ蠶絲業會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十三條 蠶絲協同組合及蠶絲業會ヲハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第四十四條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ蠶絲業者、蠶絲協同組合、蠶絲業會其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 第二條、第四條第一項、第七條、第八條、第九條第三項、第十三條、第十五條若ハ第十六條ノ規定又ハ第十八條、第二十條若ハ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス第四條第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ原原蠶種ノ製造ヲ行ハシメタル者亦同ジ

第四十六條 第九條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第六條ノ規定又ハ第十條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十四條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第四十四條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第四十九條 人又ハ法人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ人又ハ法人ノ業務ニ關シ第四十五條、第四十七條又ハ前條第一號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ其ノ人又ハ法人ハ自己ノ指揮ニ出ザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十五條、第四十七條又ハ前條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 蠶絲協同組合又ハ蠶絲業會本法中蠶絲協同組合若ハ蠶絲業會ニ關スル規定若ハ之ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ理事、監事又ハ清算人ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十二條 第二十三條第二項(第三十九條ニ於テ適用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

原蠶種管理法、輸出生絲取引法及蠶絲業統制法ハ之ヲ廢止ス

從前ノ蠶絲業法、原蠶種管理法又ハ蠶絲業統制法ニ基キテ爲シタル處分、申請、検査其ノ他ノ行為ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本法ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

從前ノ蠶絲業法ニ依リ設立ノ登記ヲ爲シタル蠶絲共同施設組合ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル蠶絲協同組合ト看做ス

前項ノ蠶絲共同施設組合無責任又ハ保證責任ノ組合ナルトキハ其ノ組織ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

式會社ガ引渡スベキ蠶絲價格安定資金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人稅法ニ依リ清算所得及營業稅法ニ依リ清算純益ノ計算上之ヲ益金ニ算入セザルコトヲ得

前二項ニ規定スルモノノ外日本蠶絲統制株式會社ノ清算ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九項ニ規定スル蠶絲業會ガ同項ノ規定ニ依リ日本蠶絲統制株式會社ヨリ承認シタル財産ニ付テハ特別法人稅法ニ依リ剩餘金ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ

蠶絲業組合法中左ノ通改正ス第三章ヲ削ル

日本中央蠶絲會ハ主務大臣ノ指定スル日ニ於テ解散ス

蠶絲業組合法第三章ノ規定ハ日本中央蠶絲會ノ清算ノ了ニ至ル迄仍其ノ效力ヲ有ス

印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條第一項第十二號中「中央水産會、」ノ下ニ「蠶絲協同組合、蠶絲業會、」ヲ加フ

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條第七號中「蠶絲共同施設組合」ヲ「蠶絲協同組合、蠶絲業會」ニ改ム

特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條第六號ヲ左ノ如ク改ム

六 蠶絲協同組合及蠶絲業會(所屬ノ會員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

本法施行前附則第八項ノ場合ニ於テハ第七項ノ日前ニ爲シタル行為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法ニ規定スルモノノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員紅露昭君登壇〕

○政府委員(紅露昭君) 只今議題トナリマシタ蠶絲業法改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明致シマス

蠶絲業ハ對米輸出貿易ノ大宗ト致シマシテ、今後我が國經濟ヲ再建スル上ニ極メテ重大ナル使命ヲ擔ツテ居リマス

ニモ拘ラズ、當面喫緊ノ重要問題デア

ル食糧ノ輸入ヲ確保スル爲ニ、其ノ見

返リ物資トシテ生絲ガ最も主要ナルモノデア

ルコトハ、是レ亦申上グルマデ

モナイ所デアリマス、而シテ戰爭中ニ

於キマシテハ、蠶絲業ハ輸出産業タル本

來ノ性格ヲ一變シ、専ラ國內纖維資源

ノ充足ヲ目的トシテ、其ノ運営ニ當ル

ト共ニ、一面產額モ著シク減少シテ參

ツタノデアリマスガ、今ヤ生絲輸出ノ

再開ヲ見ントスル秋ニ當リマシテ、蠶

絲業ヲ速カニ回復セシメ、其ノ使役能

成ヲ期シマスルガ爲ニハ、今後ニ於テ

ル我が國政治、經濟ノ動向ニ即應シ

テ、現在ノ蠶絲統制方式ニ根本的ノ改

訂ヲ加ヘ、關係業者ノ自主的運営ニ依

リマシテ、活氣アル發展ノ途ヲ拓イテ

參ル必要ガアルノデアリマス、此ノコ

トハ過般蠶絲業ニ對スル聯合軍最高司

令部ノ指示ノ次第アリマシテ、早急處理ヲ要スル問題アリマス、本法案ハ以上ノ趣旨ニ基キマシテ、日本蠶絲統制株式會社ヲ中心トシテ運営致シテ參リマシタ蠶絲業統制機構ノ廢止及ビ之ニ伴フ善後措置、蠶絲關係業者ノ自主的新團體組織ニ關スル法の措置並ニ原蠶種管理制度ノ根本的改正、蠶種ニ關スル制度ノ改正等ノ内容ト致シマシテ、必要ナル規定ヲ設ケントスルモノデアリマス、何卒慎重御審議ノ上御協賛アラントヲ切ニ御願ヒ致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(島田俊雄君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御話ヲ致シマス

○長野高一君 本案ハ政府提出農桑團體法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

スル法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——岩田司法大臣

第五 裁判所構成法戰時特別廢止法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第六 戰時民事特別法廢止法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第七 戰時刑事特別法廢止法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第八 判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

裁判所構成法戰時特別廢止法律案 裁判所構成法戰時特別ハ之ヲ廢止ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法第一條ノ二ノ規定ニ基キ發シタル勅令ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第二條、第九條及第十條ノ規定ハ本法施行後ト雖モ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第三條ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第四條乃至第六條ノ規定ハ本法施行ノ際舊法ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件又ハ抗告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

戰時民事特別法廢止法律案 戰時民事特別法ハ之ヲ廢止ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法第三條、第五條及第十四條乃至第二十二條並ニ昭和二十年法律第九號附則第三項ノ規定ハ本法施行後ト雖モ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第十條ノ二及第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ際裁判所構成法戰時特別ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第十一條第二項及第十二條第二項ノ規定ハ本法施行ノ際舊法第十一條第一項又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依リ現ニ停止又ハ中止中ノ強制執行又ハ破産手續ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

戰時刑事特別法廢止法律案 戰時刑事特別法ハ之ヲ廢止ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前舊法第一章ニ規定スル罪ヲ犯シタル者ノ處罰ニ付テハ仍同章ノ規定ニ依ル

舊法第十九條ノ二、第二十三條第三項及第二十五條ノ規定並ニ舊法第三十一條ノ規定中舊法第二十三條第三項ノ規定ヲ準用スル部分ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第二十七條ノ規定ハ本法施行ノ際裁判所構成法戰時特別ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

項及第二十五條ノ規定並ニ舊法第三十一條ノ規定中舊法第二十三條第三項ノ規定ヲ準用スル部分ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

舊法第二十七條ノ規定ハ本法施行ノ際裁判所構成法戰時特別ノ規定ニ依リ現ニ繫屬中ノ上告事件ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前舊法ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

判事及檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案

第一條 終職ニ伴ヒ官吏ノ減員ヲ行フニ際司法大臣ハ昭和二十一年三月三十一日迄ノ間ニ於テ判事及檢事中二百二十八人ヲ限リ退職ヲ命ズルコトヲ得但シ判事ニ退職ヲ命ズルハ願ニ依リ場合ヲ除クノ外大審院ノ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ總會ハ大審院ノ判事ノ三分ノ二以上出席シテ之ヲ開キ其ノ決議ハ出席シタル判事ノ三分ノ二以上ノ意見ニ依ル

第二條 裁判所構成法中判事ノ轉所ニ關スル規定ハ昭和二十一年四月三十日迄ヲ限リ之ヲ適用セズ

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(國務大臣岩田宙造君) 只今上程ニ

相成リマシタ四法律案中、先ヅ裁判所構成法戰時特別廢止法律案、戰時民事特別法廢止法律案及ビ戰時刑事特別法廢止法律案ノ三法律案ノ提案理由ヲ申上ゲマス

右各法律案ヲ以テ廢止セントスル三法律ハ、何レモ大東亞戰爭中司法制度ヲ戰時態勢下ニ置キ、民事刑事ノ全般ニ互リ司法事務ヲ簡略ニ運營スルコトヲ目的トシテ制定セラレタモノデアリマシテ、戰局ノ推移ニ即應シ數次ノ改正ヲ經テ、今日ニ及ンダモノデアリマス、然ル所終戰後諸般ノ情勢ガ逐次平時狀態ニ復シ、アル現在ニ於キマシテハ、右特別法ノ制定ノ理由ハ一應消滅致シマシテ、最早之ヲ維持スル必要ガナキノミナラズ、却テ國民ノ權利ノ保護ヲ全ウスル上ニ障礙トナル虞ガアリマスノデ、此ノ際之ヲ廢止セントスルモノデアリマス、是等ノ法律案、殊ニ裁判所構成法戰時特別廢止法律案ガ成立致シマスレバ、二審制度ハ三審制度ニ復歸致シマシテ、裁判所ノ設立、廢止及ビ管轄區域等ヲ定メルニハ法律ヲ要スルコトト相成リマス、刑事ニ於ケル區裁判所ノ廣汎ナ事務管轄ハ平時ノ狀態ニ復スルコトト相成ルノデアリマス、唯民事訴訟ニ於ケル區裁判所ノ事務管轄ノ限度二千圓ハ、現下ノ經濟狀態ニ鑑ミマシテ、尙ホ之ヲ存續セシムル必要ガアルノデアリマシテ、其ノ他ニモ現行法中尙ホ存續セシメル必要ナル規定ガ若干アリマスノデ、是等ハ

附則ヲ以テ最小限度其ノ效力ヲ維持スル旨規定ヲ致シタモノデアリマス

次ニ刑事及ビ檢事ノ退職並ニ判事ノ轉所ニ關スル法律案ノ提案ノ理由ヲ申上ゲマス、本法案ハ終戰ニ伴ヒ一般官吏ノ減員ヲ行フニ際シ、其ノ一環トシ

テ司法官ニ付テモ減員ヲ行フ必要ガアリマルス所、判事及ビ檢事ニハ、裁判所構成法ニ依ル地位ノ保障ガゴザイマスノデ、退職豫定數二百二十八人ヲ限リ一時此ノ保障ヲ撤廢シテ、之ニ退職ヲ命ジ、右減員ヲ實行セントスルモノデアリマス、尙ホ判事ニ付キマシテハ、

憲法ニ依ル身分ノ保障ガアルコトデア
リマスノデ、其ノ精神ハ之ヲ十分尊重

致シマシテ、取扱ヒノ慎重ヲ期スル爲
ニ特別ノ法的措置ヲ講ジマシタ、尙ホ
右減員ヲ實施致シマスル時ニハ、其ノ
結果ト致シマシテ職員ノ配置替ヲ行フ
必要ガアリマスルノデ、判事ノ轉所ノ
制限モ一時之ヲ撤廢セントスルモノデ
アリマス、何卒慎重御審議ノ上、速カ
ニ協議ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シ
マス

○議長(島田俊雄君) 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○長野高一君 日程第五乃至第八ノ四
案ハ之ヲ一括シテ政府提出入營者職業
保障法及國民勞務手帳法廢止法律案委
員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシ
タ——日程第九、鐵道敷設法戰時特例
廢止法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——
田中運輸大臣

第九 鐵道敷設法戰時特例廢止法律案（政府提出、貴族院送付）

第一讀會
鐵道敷設法戰時特例廢止法律案
鐵道敷設法戰時特例ハ之ヲ廢止ス
附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
〔國務大臣田中武雄君登壇〕

〔國務大臣田中武雄君登壇〕

○國務大臣(田中武雄君) 只今議題ト
ナリマシタ鐵道敷設法戰時特例廢止法
律案提案ノ理由ヲ御説明致シマス

鐵道敷設法戰時特例ハ、大東亞戰爭
ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ鐵道敷設
法ノ規定ニ拘ラズ、政府ハ鐵道敷設法
ノ豫定線路以外ノモノ、或ハ豫定線路
ニシテ豫算ニ計上ナキモノノ調査敷設
ヲ早速ニ行フコトヲ得シムル戰時法デ

アリマスガ、戦争終結ニ伴ヒ、其ノ必
要ヲ認メザルコトトナリマシタノデ、
之ヲ廢止セントスルモノデアリマス、

何卒御審議ノ上御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(島田俊雄君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○長野高一君 本案モ亦政府提出入營

者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法

律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望
ミマス
○議長(島田俊雄君) 長野君ノ動議ニ
御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○長野高一君 殘餘ノ日程ヲ延期シテ
明十一日定刻ヨリ本會議ヲ開クコトト
シ本日ハ是ニテ散會サレンコトヲ望ミ
マス

○諱長(島田俊雄君) 長野君ノ勳績ニ
御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(島田俊雄君) 御異議ナシト認
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、
議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、
本日ハ是ニテ散會致シマス

午後五時五十九分散會

五二	一四	苦シ	苦々シ
四八	五	末	防害者
四	段	行	誤
頁			正

衆議院議事速記錄第四號中正誤

二七	二一七	砲壘	砲壘
二	五二三	仰制	抑制
一二	二	三	○齋藤隆雄君
			○齋藤隆夫君

衆議院議事速記錄第二號中正誤

頁	段	行	誤	正
---	---	---	---	---